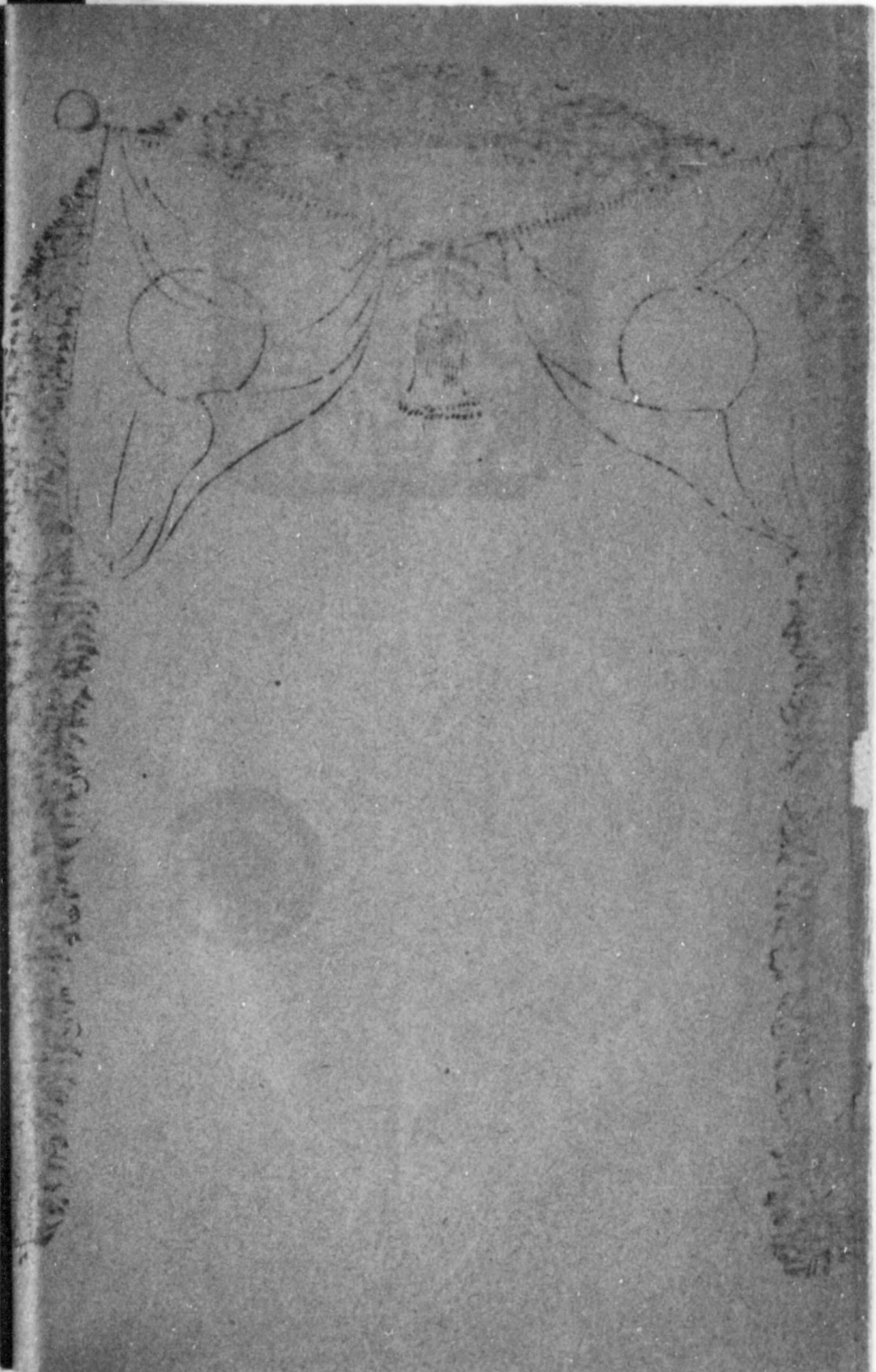
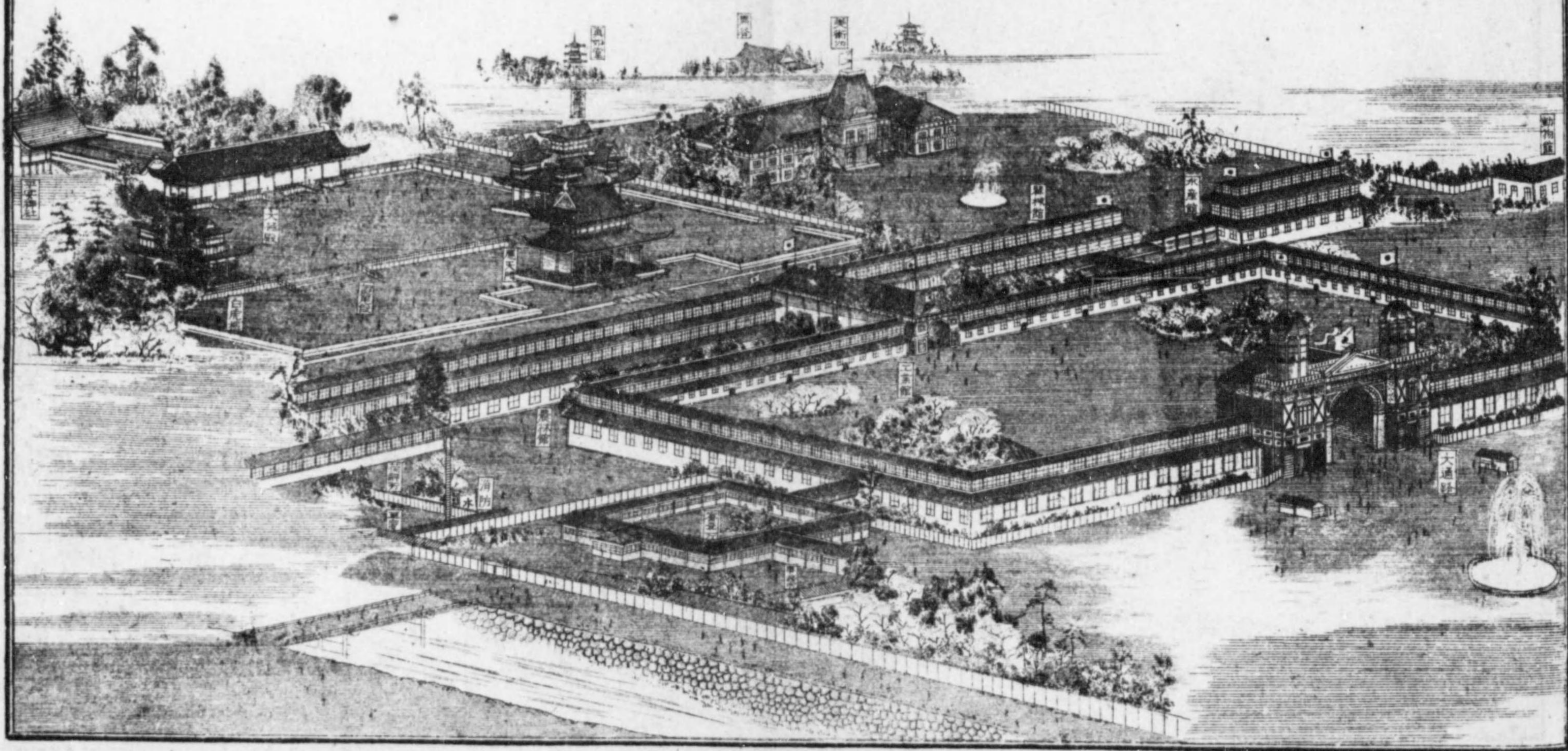
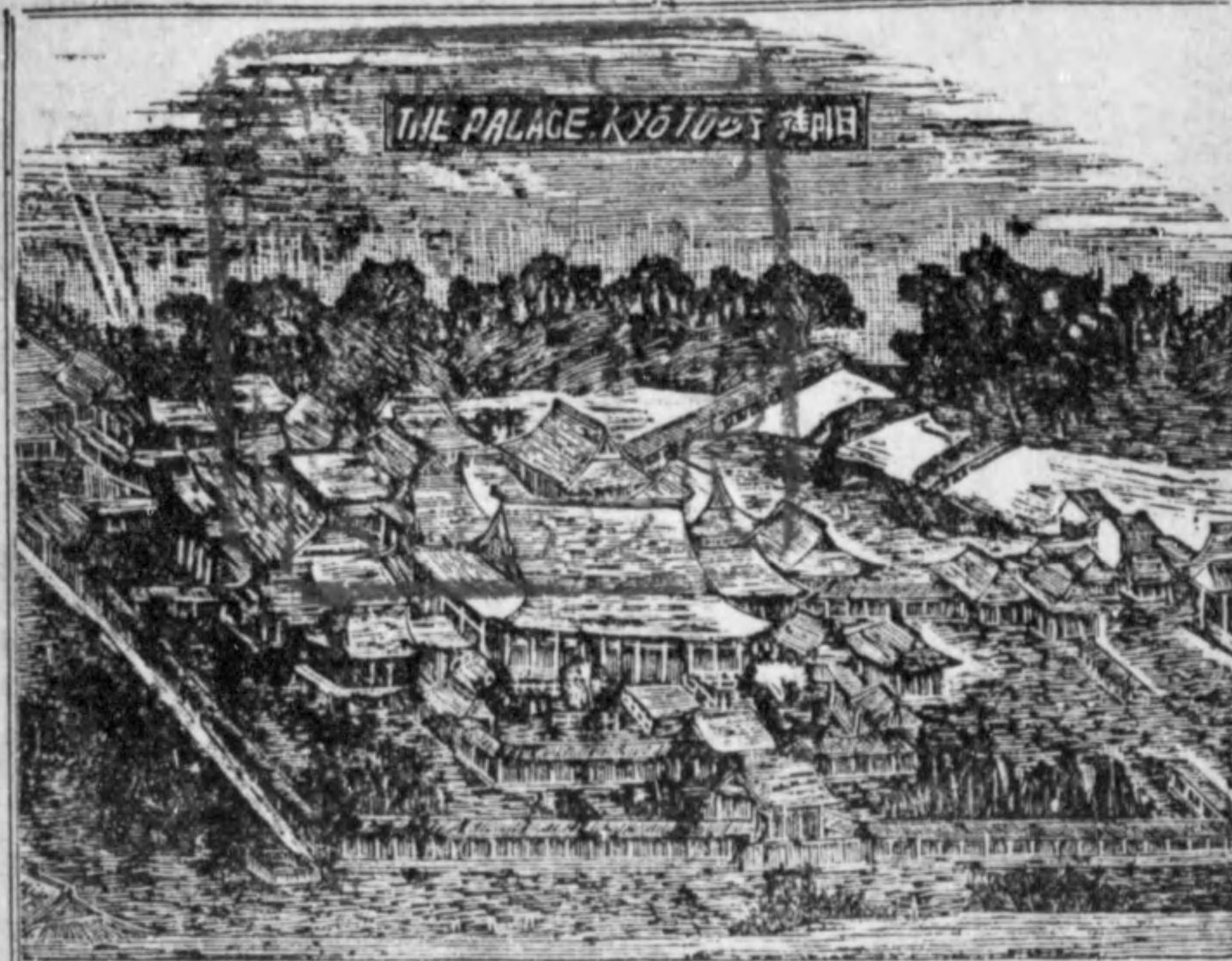


第四回國內勸業博覽會及平安紀念大極殿建築落成之圖





大博覽會
奠都紀念祭
京都名區
案内記全

御所

現今の御所は 孝明天皇の御宇安政元年の炎上後同二年の御造營に係る外廓東は寺町通より西は烏丸通に至る南に界するは丸太町として北に盡くるは今出川なり其面積貳十五万餘坪博覽會場、測候處等の建物其間に點在し就中堺町御門の西邊舊九條邸の庭池は最も幽雅の清趣を占む内廓は南門を正門とし紫宸殿は門内更に宮垣を越し清涼殿、清所、常御殿、二對屋、一對屋、内待所、記録

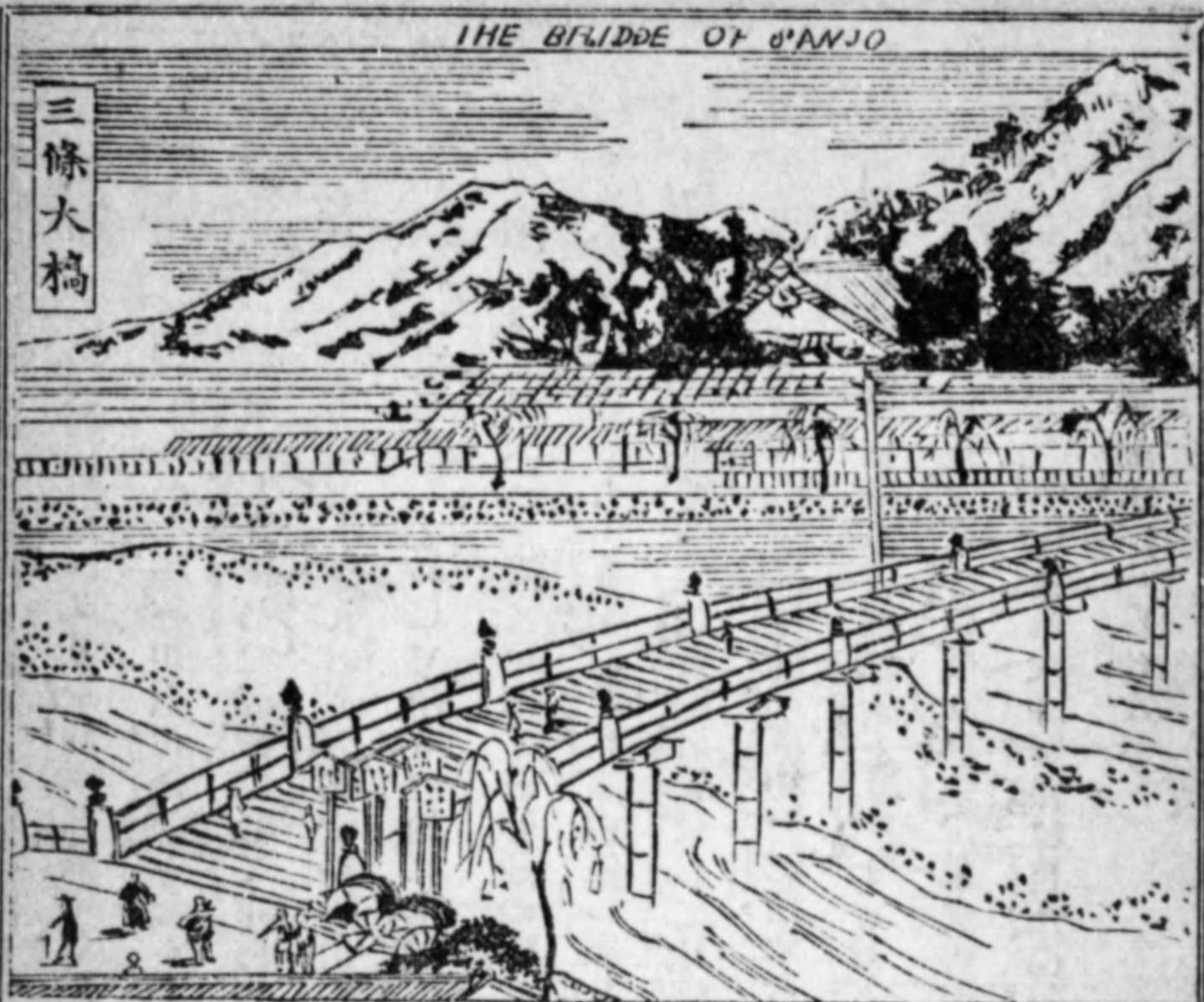
所、小御所、女院御殿、御學問所、御宮所等の宮殿雲疊櫓比すと雖も九重雲深ふして固より其奥を窺ふへき所にあらすれど誰れか無窮萬歳を祝せざらん

仙洞御前 上皇の震宮にして從來京都博覽會開設の日に當り往々衆庶の拜觀を許さる奇石苔深く老樹枝暗ふして林泉の幽邃ある人をして塵寰を脱するの想あらしむ

京都市 山城國中央にあり東西凡一里南北一里半之を二區分ち三條通以北を上京區

とし以南を下京區とす通計戸數六万四千五百七十六、人口廿九万六千六百卅九人を有せり桓武帝以降一千百年の帝都にして水青山秀、街衢潔整、繁華と閑雅とを併有するもの全國此市の右に出るはなし今や帝都東遷大に往時の繁盛を減殺したるか如しと雖皇居は依然舊内裏に保存せられ二條、桂、修學院等の離宮あり其他佛教諸派本山概ね此地にあり矧んや近平疏水の大工事成りて風光明媚に一殿の光彩を副へ大に其繁盛を回復せり風俗は儉素にして能く業務に勤む而も飲食も節して衣服も奢る俗に京都の着倒れと云物産の織物、縫箔、染物、金銀箔、陶器、紅、白粉、京人形、針、扇、團扇、錫細工、籠、晒木綿、毛植細工、樂器、花簪、驚不知、乾菓子、千枚漬、砥石、石材、黄土、藥草、茶、香魚の類其主要也氣候は寒暖其度に適す

THE BRIDGE OF SANJO



三條大橋

三條大橋 三條通加茂川にあり此橋

は京都諸街道の起點、里程元標の所在地なり慶長年間豊太閤の命に依り増田右衛門尉長盛の架する處擬寶珠と銘あり

四條大橋 京都唯一の鐵橋として夏

時軟砂清流の邊床を架し店を連らね紅燈幾万綺羅星の如く以て半宵の涼を貪る處所謂四條納涼といふもの即ち此橋邊を云

五條大橋 今の五條通は古の松原通

にして今の松原橋を架する處昔時の五條橋を架せりと云ふ人口に膾炙する牛若辨慶の古事跡にして世に鳴る處此他數橋あるも二條橋の今や工事を起し大橋とせり

二條離宮

舊二條城是れなり永祿年間織田信長始めて之を築き後明智光秀に焼れ一時荒廢し歸し其後慶長七年徳川氏再ひ之を興と今は宮内省の處屬に歸し終に離宮に充てらる尙處々に城樓をなし聖壁石疊巍然として市内の壯觀を成せり

本能寺

寺町通押小路あり天正十年織田古府此寺に光秀の爲に弑殺せられしは六角の南油小路の東に在しものにて今も其地に本能寺町の名を存せり其後此地に遷す

新京極

三條大橋を隔て三四丁三條通の南にあり各種の飲食店、諸興行場等櫛比鱗次し夜となく晝となく人山を築く蓋し鬧市第一の熱地なり此雜沓場裏に散在するは○誓願寺○和泉式部墓○蛸藥師○錦天神社等にして地繁華の中心と位するを以て賽客常に絶へど

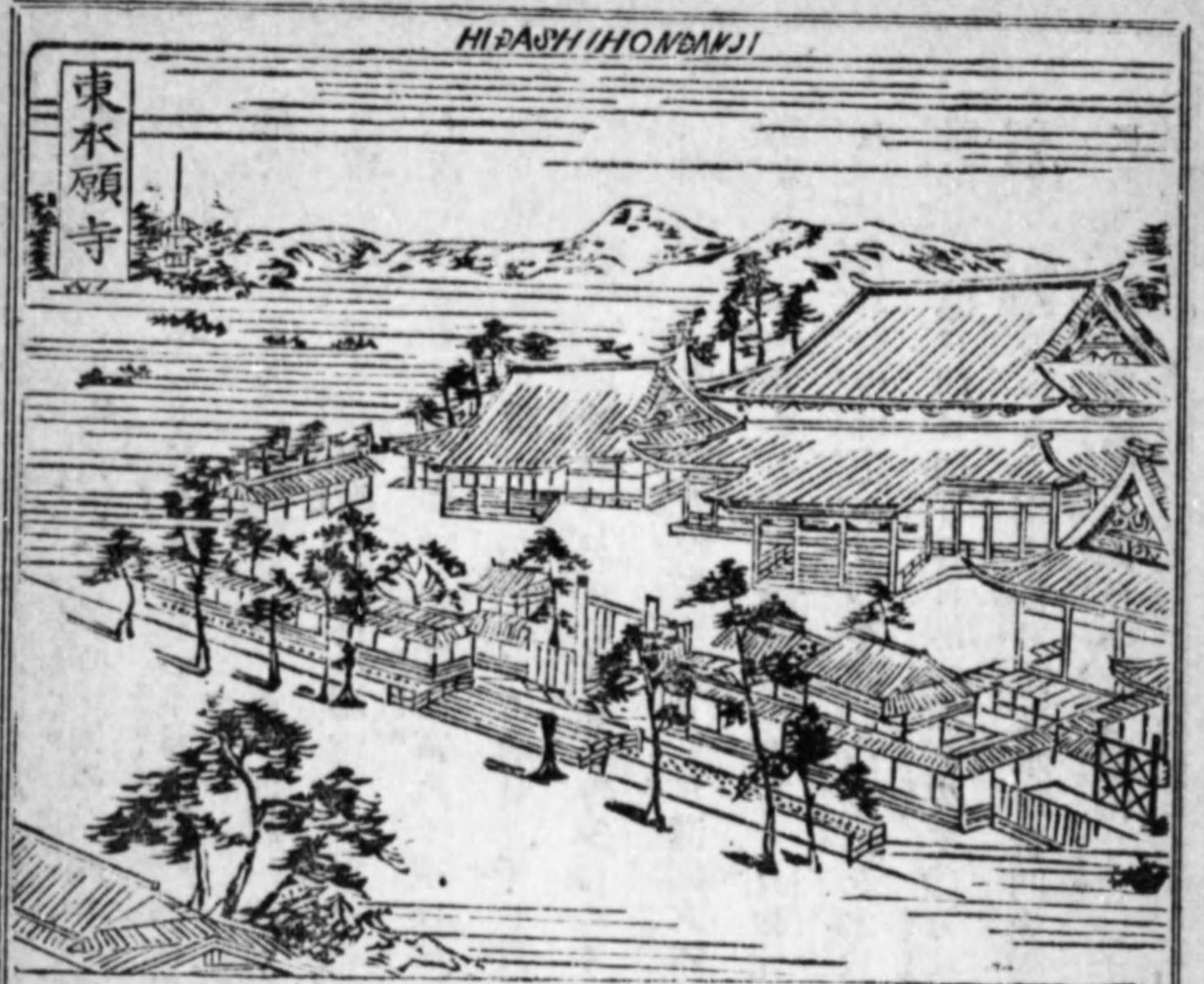
祇園新地

四條大橋の東幾條の市坊を包括するを云ふ酒樓妓院戸々相接し近來嶋原衰へて此地益繁盛紳士宮豪來りて驕奢を鬪すもの夜々跡を絶たず歌音起り絃聲湧く

佛光寺

高倉通佛光寺にあり眞宗、佛光寺派本山○當寺門跡號の後土御門帝御宇寛正年十三世光教上人○本尊見眞大師影像是自作○阿彌陀堂 本尊は悲覺大師の作○聖徳大師像是自作○圓光大師木影も自作なり

HIDASHI HONDAJI



東本願寺

東本願寺

當寺草創は本派本願寺第十一世顯如上人嫡子教如上人慶長七年徳川將軍の壽命に依て六町四方の土地を受け新に堂宇を建立し本願寺門跡と稱す○堂殿は數々回祿に罹れりと雖も先年來末寺信徒等の奮勵に依り更に間口四十間餘二重屋根美麗宏壯の祖師堂及間口十八間計り精好を極めたる阿彌陀堂を建築し畧竣功を則ち明春佛會を舉行すると云ふ尙ほ其他殿舎樓門等今正に計畫せり且つ今回建築用に供したる數十丈の髪細は兼て當寺の所藏に係るものにして信徒各自ら頭髮を切り相集め細に綯へる者にして

六十餘條あり實に其信徒の熱心堅固の精勵ある看者をして轉た驚嘆に堪へざらしむる以て當寺の隆盛無比なるを想ふへし○本尊阿彌陀佛は安阿彌の作○見真大師像は自作○枳穀邸は東殿と號して間之町珠數屋町にあり河原院の舊蹟にして當寺の別館あり池水は高瀬川を引き常々溶々たり臨池殿の庭は小堀遠州の好みにして風光奇絶なり○當寺は世の偏く知る如く西本願寺と共に全國最も宗徒に富める本山にして參詣の男女常に堂前に蟻集して殊に春季の如きは遠く諸國より來賽する者日々千を以て數ふへく近傍の旅店又は佛具店の如き單に之に據りて其終年の生計を營むもの多しとぞ

本國寺 西本願寺の北にあり 日蓮宗大本山○開基は日蓮上人○當寺初め相州鎌倉に

建立あり法華堂と名く當宗最初の寺なり貞和元年光明帝の勅に依り今の地に移す此地は舊六條判官爲義の邸宅なり○本堂 法華經を本尊とす日助の筆○立像堂 釋迦佛を安置す○祖師堂日蓮日朗日印日靜日傳の像を安す○方丈 此建物初め江州安土城にあり後ち中納言秀俊の館となし次て此に移す額は水戸黃門光國筆、繪畫は狩野永徳筆○人應社 方丈の庭にあり足利尊氏樓閣を此所ふ築き觀柳亭と號す

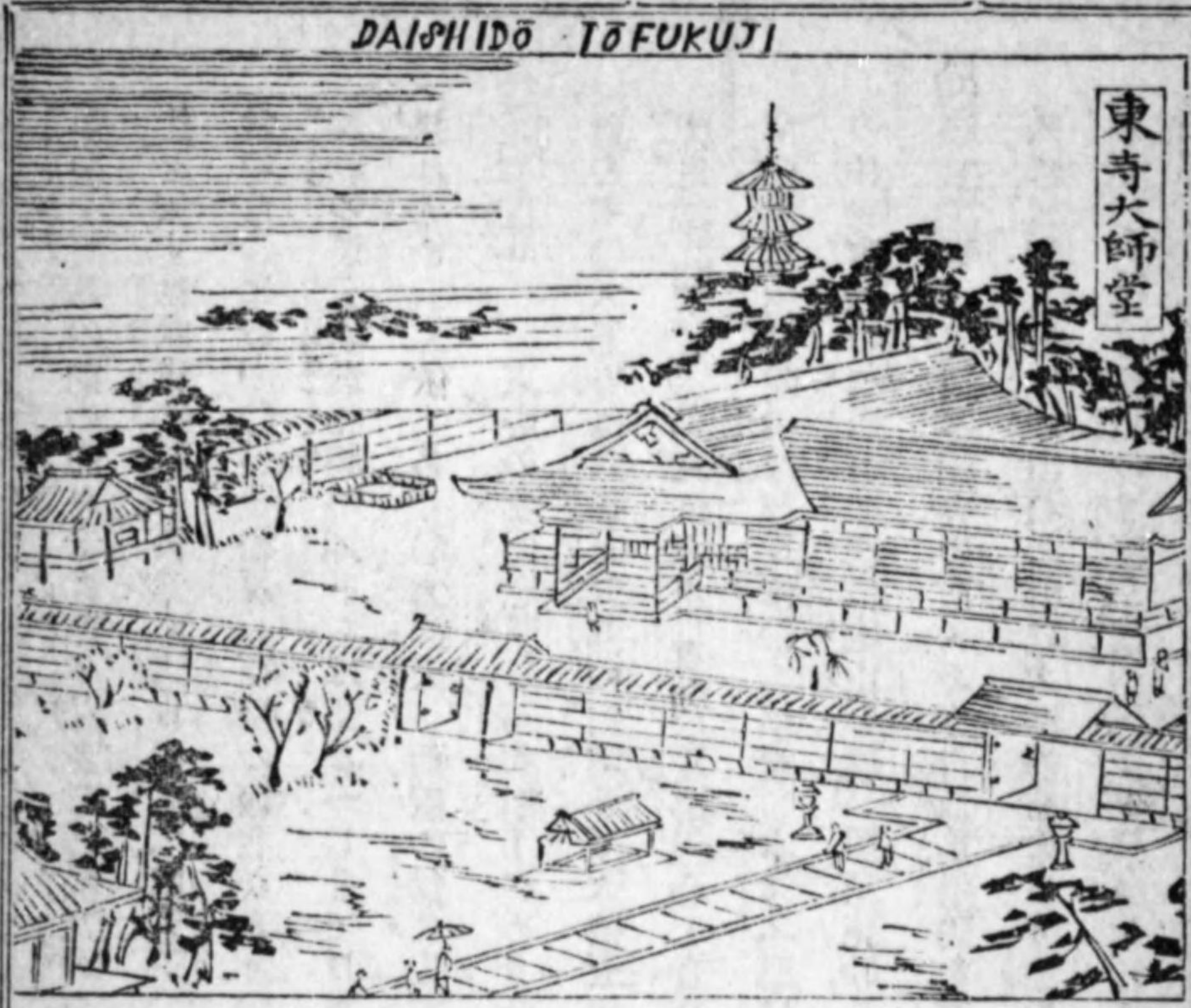
NONDANJI



西本願寺

西本願寺

當寺草創は龜山帝御宇文永九年見真大師息女覺信尼公勅を奉し洛東大谷に大師廟堂を建立し勅願所として龍谷山本願寺の號を賜ふ中興蓮如上人の代山科郷に移し證如上人の代攝州石山に建て顯如上人の時二品親王の勅書を賜はり及御門跡の勅許を蒙り次て寺を紀州鷲の森に移し遂に天正十九年八月今の地に固定す○御影堂 紫雲殿の摸形にして堂内の正面に燦爛たるは 今上天皇の恩賜勅額なり○本尊大師像は自作にして覺信尼公に陪與せらるゝ處のものなり大師滅後遺骨を細末にして漆に和し影を潤色せ



東寺大師堂

り故に骨肉の御影と稱す○南北脇檀には前任及び歴代上人の畫像を餘間には九字十字の名號(寂如上人の筆)を安置す○阿彌陀堂 本尊は春日の作脇檀には六高祖畫像を餘間には聖德太子、圓光大師畫像を安置す○對面所 繪畫は長谷川了溪の筆○白書院 繪畫全筆前に能舞臺あり○黒書院 繪畫は狩野探幽筆○鐘堂 鐘は舊太秦廣陸寺にあり信西入道の銘よして名高きものなり○唐門 北小路の方より舊豐國社にありし者にて彫刻は希代の美觀○滴翠園 虎の間の東南にあり高樓を飛雲閣と號す秀吉公聚樂亭の遺物あり、額は九條尚實公筆、上閣の畫は霞の富士、中閣の額は三十六歌仙、共古法眼元信筆○前庭には滄浪池、嘯月坡、龍脊橋、踏花場、夜光石、黃鶴臺、胡蝶亭、青蓮射、醒眼泉其他花鳥の風景あり

興正寺 本願寺の南にあり 眞宗興正寺派本山○草創は見眞大師四十才の時山科郷より一字を造營し興正寺と名け高弟眞佛上人に附屬せり後ち比叡竹中の庄澁谷に移ち後醍醐帝御宇本尊端光を放たれしを以て佛光寺と改號し勅語を賜ふ十四世經豪上人本願寺蓮如上人よ歸し新たに一堂を建て舊號を用ひ興正寺と稱す後ち顯尊上人の時門跡號の勅許を蒙り天正十九年今の地に移り本願寺の未流となりしか維新後分れて一派の本山とされり

東寺

教王護國寺と號す大宮迪九條の北にあり 眞言宗本山○桓武帝朱雀門(羅生門)の東西に伽藍を建立し玉ひ西寺は奈良の守敏に賜ひ東寺を空海よ賜ふ之れ當寺の草創なり(西寺は今亡し)○寺域凡そ三萬坪余門の南大門 樓門を云ふ金剛力士を安す運慶並に湛慶の作、華蓮門(西)慶賀門(東)八足門(北)等あり○金堂 豊臣秀頼の再建内に藥師佛日天月天を安す○講堂 大日如來、金剛菩薩、五大尊、四天王を安す○食堂 本尊千手觀音、地藏、毘沙門天を安す○五重塔 四佛を安す○寶藏 大師の寶器を藏む○瓢

三十三間堂



三十三間堂 蓮華王院俗に三十三間堂
 と云ふ○始め鳥羽上皇此地に一堂を造營
 し得長壽院と名く後ち後白河法皇の御願
 として備前守平忠盛奉行となり千体御堂
 を建立す堂の間口六十六間而して二間を
 隔て、柱を建るか故に三十三間堂と稱す
 斯くて後ち一度火災に罹り後ち十八年を
 經て龜山院の御宇文永三年再建あり今の
 堂は其時建立の儘にして南北の桁行六十
 六間其棟木の由來は柳の於柳とて世人の
 普く知所之○本尊千手觀音は康慶の作○
 廿八部衆は壇上に安し千手觀音一千体の
 堂内の左右に安置せり運慶湛慶の兩作之

單池 寶藏の前の池を云ふ燕子花多し○猫瓦 南の築地の上にあり○西院 開山弘法大師
 影を安す法眼康勝筆○後堂に大日、不動、四天王、盤若菩薩を安す○五寶石(一名不動石)後
 堂の白妙にあり○松子松房 西院の西北よりあり○三鈷松 西院の前にあり弘法大師唐より
 歸朝の時我密教相應の地あらは止るへしとて日本の方に向て三鈷を投げられしに此松枝に
 掛れりと云ふ依て名く○大黒天 西院の傍に安す弘法大師の作○例月廿一日は諸人群參す

六孫王社 東寺の北門を距る西北數丁にあり此社舊と北隣大通寺に属す維新後分ちて一
 社とす○大通寺は六孫王經基の第宅あり天徳五年經基公逝去の時此に靈廟を築く後ち二位
 禪尼(賴朝の後室)三位禪尼(實朝の後室)心を合せ當寺を創立し眞空律師を左して開基とな
 す○本尊阿彌陀佛は運慶作○本地堂 本尊不動は興教大師の作○方丈 寶冠釋伽佛は空朝
 の作又實朝の眞影あり庭は廬山を摸し風景絶妙あり○誕生水は源滿仲初生湯に用ゆと云ふ

島原遊廊 西本願寺の西にあり丹波街道町を西に進み左折して裏片町の南方より右側に
 入れは即ち遊廊の出口の柳は大門の右にあり島原の名に此地開始の際恰も肥前嶋原の騷亂
 ありしを以て其賊の城廓を搆へ天下を擾亂したるに比し戯に命名したるものありと

豊國神社

別格官弊社○祭神は贈正一位關白太政大臣豊臣秀吉公○門は舊伏見桃山城の遺物を移したるものあり○初め慶長四年秀吉に豊國大明神の神號を下賜せられ方廣寺の境内に其祠を造營せしも寛政の回祿後又再建の事ありしか明治十年に至り官之れを別格官弊社に列し新に土功を起して今の社祠を營めり○社の脊後東山の峯嶺は即ち阿彌陀の峯にして秀吉の英魂の眠る處なり今や我邦征清の出師あり英魂の完笑知るへし

耳塚

豊國神社の前面道路の傍にあり秀吉の朝鮮を征する獲首豐萬級畢く之を携へ歸る能はず即ち其鼻耳を切りて送り此に埋めたるなりと云ふ

大佛殿方廣寺

豊國神社の北隣にあり 天臺宗○當寺は後陽成院の御宇天正十四年豊臣秀吉の建立○初め堂殿宏壯巨佛も金佛なりしに寛永年間銅錢を鑄今の寛永通寶は夫れありと云ふ故に大佛は其影の半体を木佛に殘しあり堂殿も數十年前回祿に係り今は只た假屋にして門前巨石を疊み封境を築きたる跡を止め其當時の結構雄偉ありしを留むるに過ぎず○今尙存せし此寺の鐘は世人の己に知る如く巨大のものにして大坂軍前彼の大物議を惹起せし物にして今尙鐘面に國家安康、大小釋迦迭爲主伴等の語を讀むを得へし

KIYOMIDZUDERA



清水寺

法相眞言兩宗兼學○音羽山と號し清水坂の東端に位す洛東第一の靈場にして其名遠近に轟く光仁天皇の御宇寶龜九年大和小嶋寺の僧延鎮偶々木津川の水源に潮り異人行啟居士に遭遇し觀音安營の事を依頼せらる延曆十七年當山に於て坂上田村麿に出會す田村麿延鎮の素願を感じ己れの居宅を寄附して觀音寺を建つ大同年中帝紫震殿を田村麿に賜ひ移し用ひて伽藍と名し號を清水寺と改む○本尊十一面四十臂千手千眼觀音の田村麿居士寄限を約するの夜化人來りて之を作る脇土地藏毘沙門天は延鎮の作○奥院は

延鎮草庵の跡なりと○阿彌陀堂は瀧山寺と號し法然上人念佛三昧開闢の處あり○朝倉堂は越前國司朝倉彈正の建立鼻水は中門の西よりあり○音羽瀧は奥の院の下にあり○爪形觀音の春日社前よりあり傳へ云ふ景清爪を以て彫ると○本堂前は世に清水の舞臺と稱し遠く望めば河内金剛山を天空の間に認め淡路の諸山を模倣の中に見るへし建築の模様實に奇絶なり

西大谷

五條坂の上よりあり 本派本願寺廟所○此寺門前の風景人工に成と雖も亦洛東の一佳境たり池上花岡石を疊み眼鏡橋を架し橋下多く蓮を栽へ花候雅客節を弔く當寺より清水寺に至る間を鳥邊山とす墳墓累累中に阿俊傳兵衛の墓あり試に至れ無常の風常に吹り

八坂塔

法觀寺と號し聖德太子の建立○往古は櫻門伽藍等巍々たりしが年を経荒廢す八坂塔の東にあり維新以來戰死者の幽魂を祭り招魂碑を建てり故内閣顧問本

靈山

戸孝允の墓亦此山半腹にあり靈山と號するは靈鷲山の畧言にして又鷲尾山とも云へり

高臺寺

靈山の麓にあり開基は弓箴和尚中興は三江和尚にて禪宗○慶長年間豊太閤の夫人北の政所の普臺所として建立往年罹災せり○著名ある時雨の亭及び傘の亭は後山獨秀峰にあり千利休の好にて雅致あり當寺は洛東胡枝花名所中の一なり

祇園社

八坂神社と云ふ官弊中社○正門は南面にして境内極めて廣く祭神は素戔鳴尊、八王子、稻田姫を合祀し貞觀十一年王城守護として此地に移す初めは播州明石の浦に垂跡せるを吉備大臣同國廣峯に勧誘し後又此地に移したるものなりと近年櫻門社務所等新築あり從來の美觀又一層の光彩を添ゆ○龍穴は社壇の下よりあり傳へ稱す深さ五十丈にして尙其底に達せずと果して信耶○祇園會は例年七月十七日及び廿四日に執行す市内各衢より山鉾を曳出し祇園新地より遊女の練物を出し豪壯華美蓋し我邦無比の美祭あり

GIOM AND LAND MARUYAMA

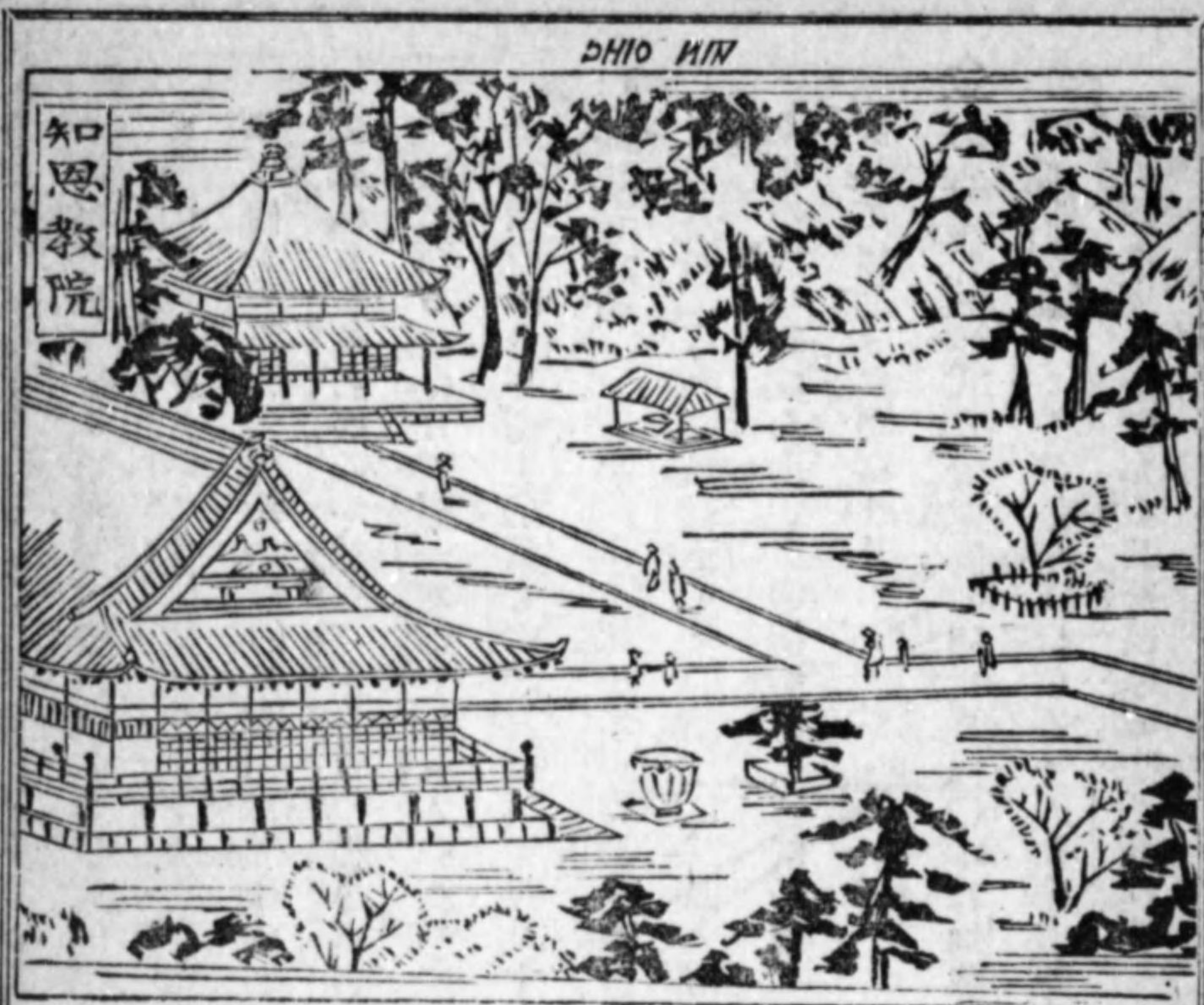


圓山公園

此邊一園を眞葛ヶ原と云ひし處なり近來大に修理を加へ愈々繁榮の地となる
 祇園社の近傍渾て櫻樹多し然れども世人の稱して祇園の櫻と云ふものは智恩院に到らんと
 する路傍にある一大巨幹の垂枝櫻を云ふものにして花時今は電氣燈を以て夜色を添へ遊客
 競ひ集る祇園の夜櫻是れあり○圓山鑛泉 東山の半服に三層の高樓を見る是れあり明治六
 年の創設に係り浴場室房皆洋風を擬し一浴して欄頭に凭れば京師滿市を一眸の裏にねむ北
 方の旅館數軒あるは古へ安養寺の宿坊にして今尙ほ也阿彌、左阿彌、蓮阿彌、正阿彌、眼阿彌
 端の寮等の名を存せり料理店又はホテル等にて外客絶ゆる事なし○頼山陽墓 山服にあり
 先生常に東山の秀色を愛す此翠巒の間に眼る復遺感なかるべし○安養寺 時宗○開基は傳
 教大師中興は慈鎮僧正○長樂寺 時宗○開基は傳教大師○芭蕉堂、大雅堂、西行庵等あり
 將軍塚 桓武帝奠都の初め地を東山の巔に卜して長さ八尺の土偶に甲冑を襲ひ弓箭を
 帶し之を西面に埋められしものありと云ふ蓋し王城の守護神たらしめんとの慮に出しも
 のありと茲に登臨せんには長樂寺より圓山より智恩院よりするも孰れも七八町攀つれば山
 巔に達す則ち塚上凹形をなし老松簇生せしを見るべし

智恩院

淨土宗鎮西派總本山○華頂
 山大谷寺と稱し東山第一の巨刹之境域山
 服に據り廣漠にして秀麗森々たる樹木巍
 々たる樓臺と相映射し風光閑雅筆舌の及
 ぶ所もあらず○當寺は圓光大師一宗開發
 の靈所なり初め東の山服今の勢至堂の地
 (大師入寂の地)なりしか滿譽五尙の代徳
 川將軍險阻を平け伽藍を建立す○樓門の
 額は靈元法皇震筆にして閣上には月益長
 者善財童子十六羅漢像を安す○本堂の額
 は後奈良帝震筆にして内に圓光大師像阿
 彌陀佛(大師臨終佛にして實印供奉の作)
 を安す○勢至堂の額は後柏原帝震筆(今



其寫を掲ぐ本尊勢至は安阿彌の作○大師廟は山上にあり○和尚石の方丈の庭、瓜生石は黒門前、小鍛冶井(小鍛冶宗近名剣を鍛ひし時用ひたり云云)は機門の傍にあり○本堂南隅の檐に狹みたる大傘の骨は所謂不思議の傘とて世々鳴るもの○方丈漢の狩野諸大家の筆に成れる數種名畫の中拔雀、八方睨の猫等は名高し又露廊下の左甚五郎の作とかや○東南山腹に在る鐘は日本第一と稱する巨大のものにして高サ一丈八尺直經九尺厚サ九寸五分寛永年間の鑄造と稱す○當寺御忌會は例年四月十九日より一周間執行し道俗群參す

青蓮院門跡

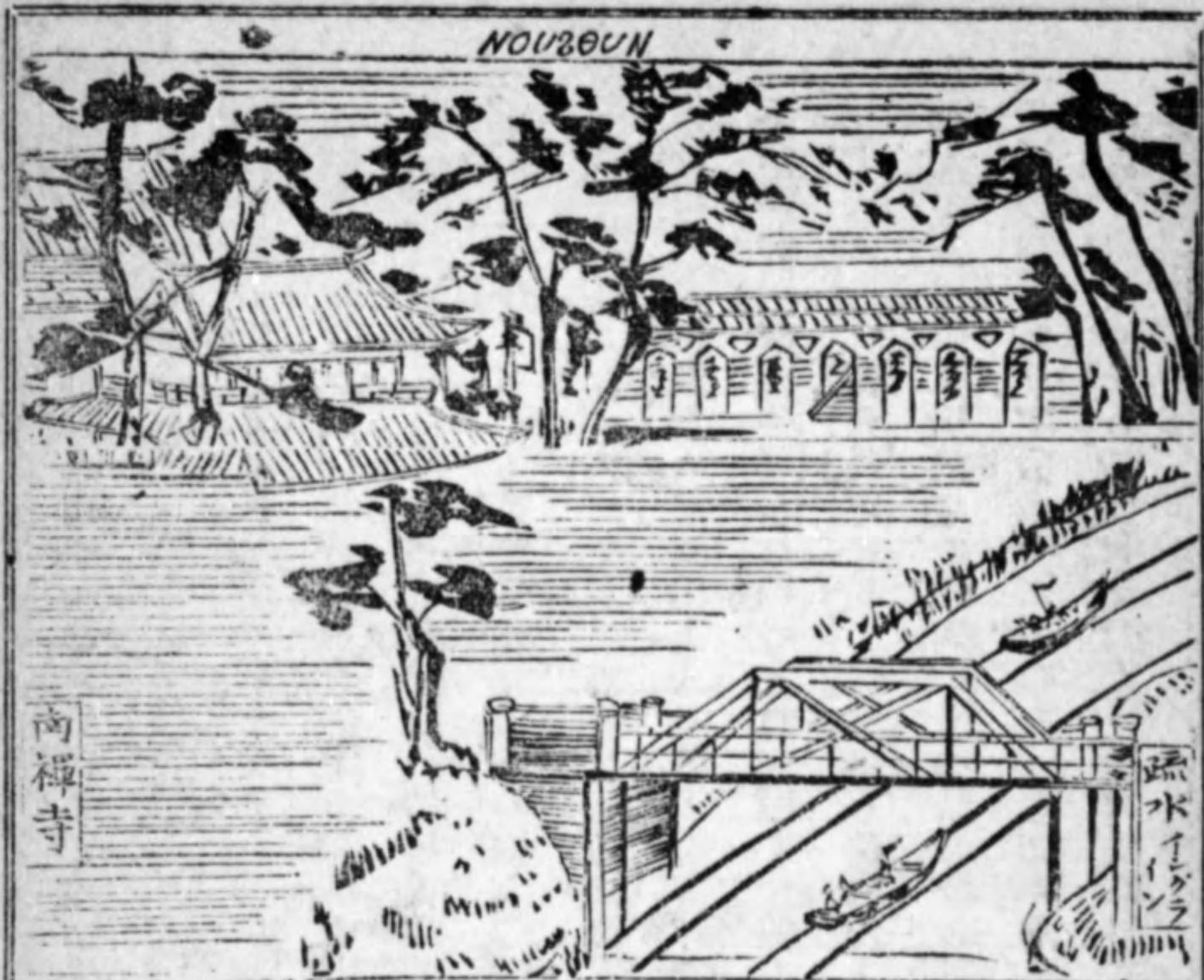
智恩院より栗田に出る處にあり天臺宗○開基は傳教大師、中興は行玄大僧正、其第二は覺快法親王なり○第三は慈圓太僧正○殿舎壯麗なりしか明治廿六年祝融に罹り世の惜しむ處ありとす○植髮堂は當院の東にあり見真大師幼童九歳の時植髮の尊像を安置して信徒日に參集せり

金藏寺御猿堂

青蓮院の隣にあり○本尊地藏は傳教大師唐土より携歸れり

栗田神明社

三條通栗田口にあり清和帝貞觀年中菅原船津に勅して勸請し玉へり初め殿宇壯嚴なりしか應仁の兵燹已來輕微とあれり



南禪寺

疏水運河

時の京都府知事北垣國道氏の計畫起工する處なり明治十八年始めて工を起し廿五年に及び竣成したるものにて京都大津間の運漕及び水力利用田浦灌漑等の便を計り開鑿せる溝渠にして水源を近江國琵琶湖三保ヶ崎に發し廿二丁余の逢坂山の隧道其他二隧道を経て三條蹴上に至り分れて幹支の二線となり幹流は南禪寺の前を過ぎ白川を横り丸太橋の南へ出鴨川に落つ支流は南禪寺山に沿ふて北に馳せ若王子前を過ぎて白川村に至り西回して高野鴨二川を通りて堀川の上流小川頭に入る洵に偉大の工事と云ふべし

南禪寺

禪宗五山の一〇當寺は舊と龜山法皇の離宮なりしを弘安年中門基大明國師に賜はり禪刹と名せり〇山門を五鳳樓と號し寛永年中藤堂高虎の再建にして閣上には高虎大坂出陣の時討死せる將校從者の牌を安置せり〇山門内に大なる石燈籠あり寛永五年九月佐久間大膳亮勝之寄進す〇當寺に有名なる鳴瀧の書(古法眼元信筆)水香の虎(探幽筆)等あり〇金地院は寺内にあり開基は大業和尙にして佛殿書院は舊伏見桃山城の殿舎を移したる者あり又八つ窓と名くる茶室は小堀宗甫の好み〇駒ヶ瀧は後山にあり避暑に宜し

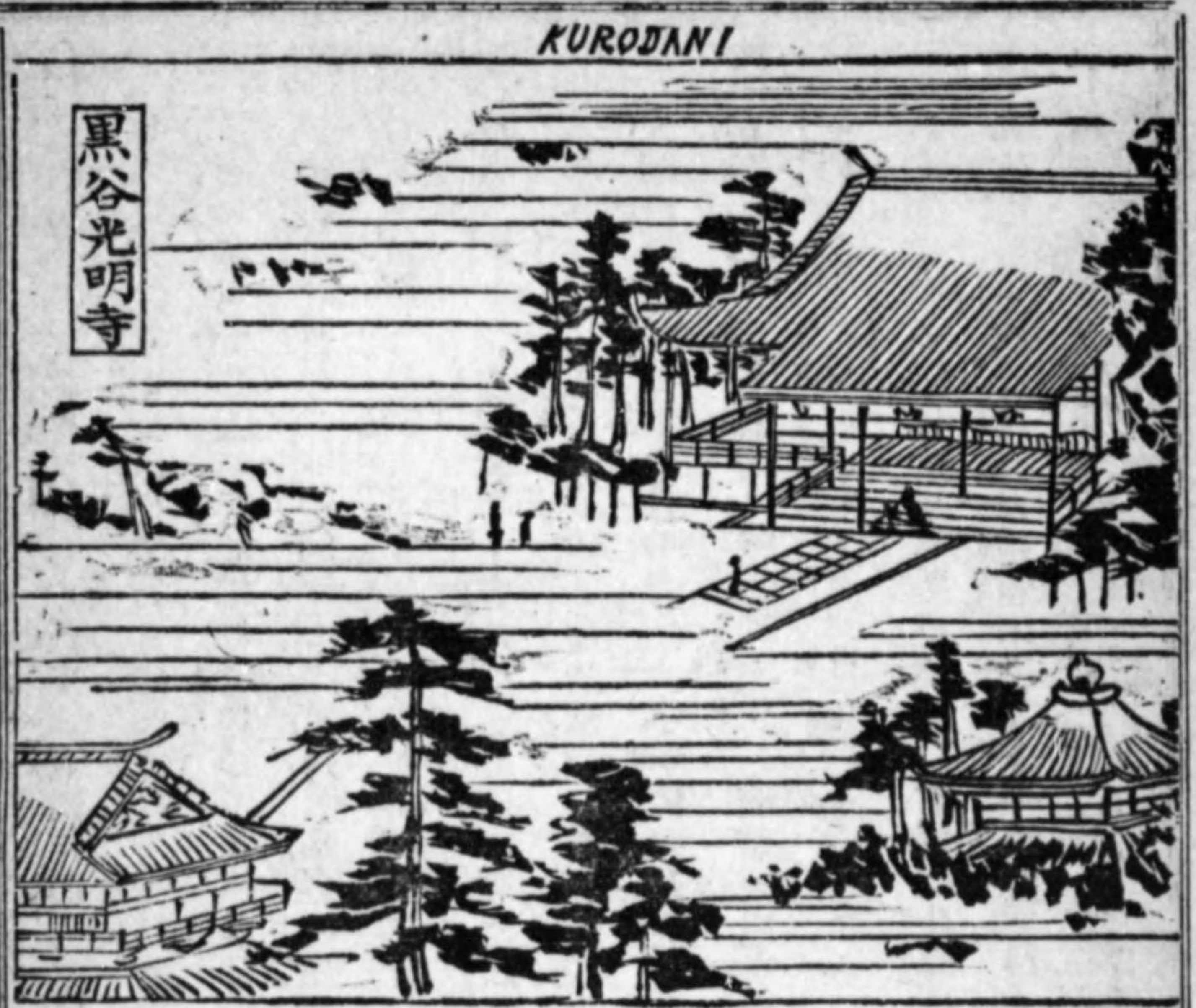
永觀堂

淨土宗にて禪林寺と云〇西山派本山〇當寺は清和天皇勅願所として貞觀年中眞紹僧都の創建なり後西山上人の弟子西谷淨音和尙に至り眞言宗を改めて淨土宗とす〇本尊阿彌陀如來立像は世に顯の本尊と號す山縁あり境内池あり鶯池と號す楓樹秋景遊客多し

若王子

舊天臺宗にして修驗道を兼ねたりしか維新後寺を廢して若王子社と號す〇熊野權現宮は後白川法皇の勅願なり〇觀音堂は那智山の本地十一面觀世音を安す(洛東觀音巡行の隨一あり)〇山中に瀑布あり那智の瀧を摸すものなりと云ふ〇境内の風景清幽閑雅櫻あり楓あり萩あり杜鵑を聽くへし飛瀑に浴すへし四時の景物皆あり騷客四時絶へず

KURODANI



黒谷光明寺

黒谷

金戒光明寺紫雲山と稱す淨土宗鎮西四箇の一本寺古昔淨土宗の始祖法然上人の舊蹟にして叡山の西塔黒谷を摸したるに依り初め新黒谷と稱せしが中世單に黒谷と稱するに至れり〇本尊圓光大師像は自作又眞見大師自作の像あり觀音堂本尊は行基の作〇阿彌陀堂本尊は惠心の作〇勢至堂は圓光大師の廟〇熊谷堂は熊谷蓮生坊自作の像及平敦盛の畫像を安す〇三重塔にある文珠菩薩は日本三文珠の隨一(他の二文珠は丹後の切戸大和の安倍にあり)〇鐘掛松鐘池は熊谷直實圓光大師の教に歸せし時此池水に洗掛たりと

眞如堂

眞正極樂寺と號す 天臺宗○開基は戒算上人○本尊阿彌陀佛は慈覺大師の作にして大師在世中叡山堂行堂に安置しありしか後ち戒算上人に夢告あり堂行堂を出て處々遍歴の後ち元祿五年冬此地に遷座したまへり○戒算上人の像は尊證法親王の筆○元三大師堂の畫像は自作○石鑿師堂の本尊は舊禁裏に在りしか正親町天皇御宇當所に遷し王ふ○觀音堂本尊は昔の縣井より現せり故に縣觀音と稱す○境内楓樹多紅色他に増る雅客多し

大文字山

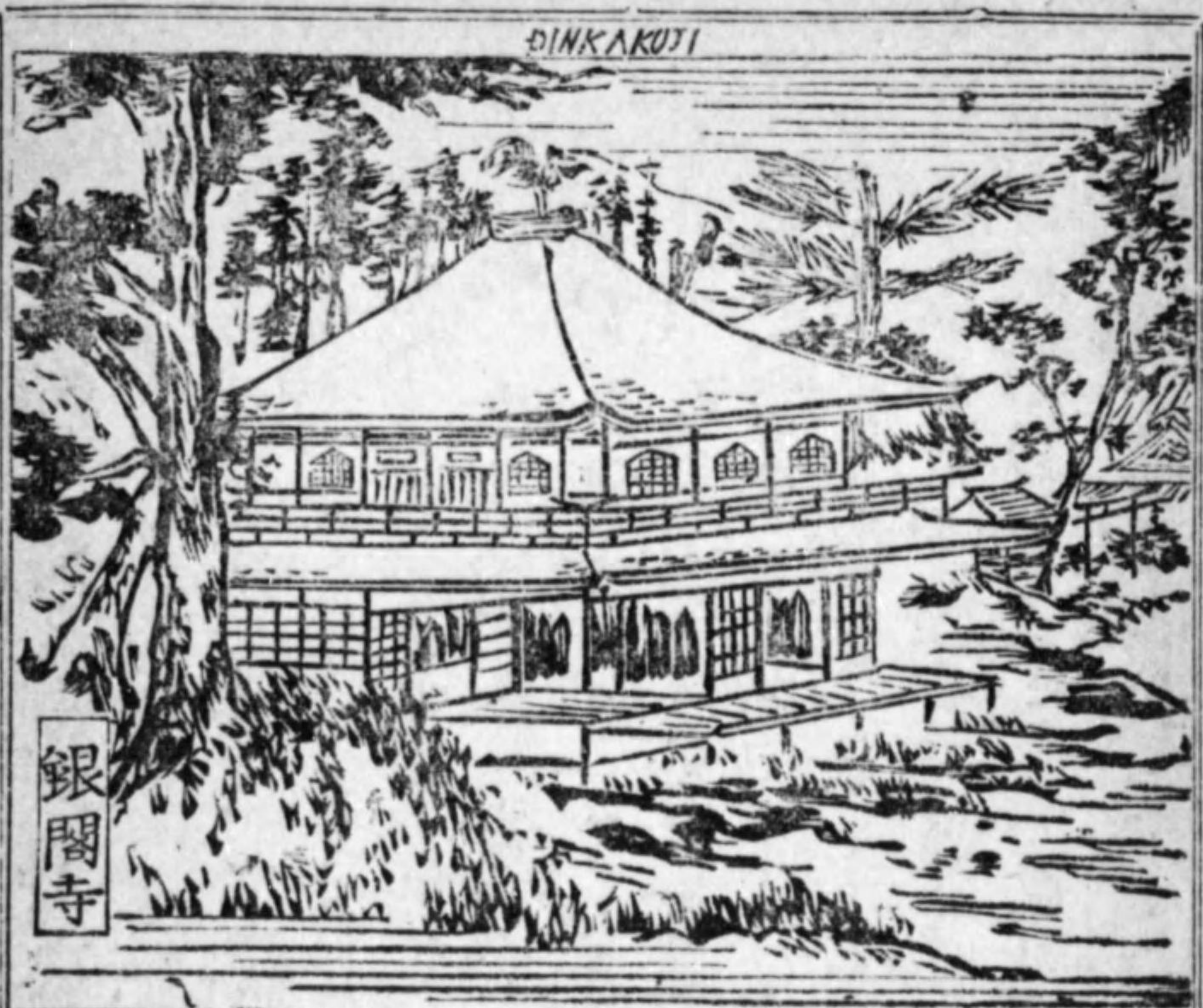
鹿ヶ谷の上方丹後空に聳ゆるを如意ヶ嶽と云近江國に跨る峻嶺にして俗に大文字山と云ふ昔淨土寺の伽藍回廊の時本尊飛て此山に留まり光明を發せ故事によりて弘法大師自作以來毎年七月十六日大字形に火を燒き光明に擬す概ね例となす

百萬遍

智恩寺と云ふ淨土宗 鎮西派四本堂の一○草創の慈覺大師○法然上人賀茂の神勅に依て住持弘法せられし已來淨土宗となる百萬遍と稱するは後醍醐帝の勅號にて縁起あり○本堂の額は後奈良帝の震筆○當寺の什實に弘法大師筆利劍名號は世に名高し○圓光大師筆一枚起請文及趙州宋王より平清盛に贈りたる松蔭硯(紫石)あり

千菜寺

費臣秀吉の時千菜を獻す故に名を得六齋念佛は此寺より出るものなり



銀閣寺

慈照寺と云ふ禪宗○開基は夢窓國師○舊と足利義政閑居の別業として東山殿と稱す○東求堂は義政在政の持佛堂にして今其像を安す○茶室の堂の東端ありて義政の好みにて四疊半茶室の囀矢とす○二重の高閣あり鹿苑寺の金閣に准して銀閣と稱す故に俗に當寺を銀閣寺と云ふ閣の上殿を心空殿下殿を湖音閣と云庭苑の東山殿茶道相阿彌に命して造らしめし者にて飛泉あり向月臺あり銀沙灘あり月待山東脊の上にあり種々奇石を集め風光美妙四時の壯觀足らすと云ふし去て寺僧に問へ離僧異調を以て懸示せん

比叡山

巍然として京都の東北に聳へ城江二州に跨るものを比叡山とす往昔桓武帝奠都の始め特に傳教大師に勅して伽藍を此山頂に荆め帝都の鎮護たらしむ延暦寺即ち之れあり京都より此山に攀つるに二路あり一は修學院の東雲母坂よりし一は八瀬よりを八瀬よりするものは先嶺川に入り雲母坂よりするものは先無動寺に到り次に東塔に入るへし叡山に三塔あり東塔西塔及横川是れなり山頂に到れば西は京洛東は琵琶湖を一眸の裏に見るへし

詩仙堂 石川丈山閑居の舊跡幽篁門を遶りて只清風明月の來るに許し丈山嘗て本朝三十六歌仙に擬し漢晋唐宋の詩家三十六人の像を狩野尙信に托し四壁には像を畫き丈山彼等の自作に係る詩を題せり又當所に丈山の遺物種々ありて存す

修學院離宮

山端の東元修學院村にあり 後水尾天皇離宮の舊址にして維新後暫らく離宮の名を除かれたるも再び離宮に充て衆庶の拜觀を禁せらる林苑櫻楓多く幽邃勝て云なし

下加茂社

官幣大社○祭る處の玉依姬命、建角身命の二座○神殿は天武天皇白鳳六年御改造にして結構壯麗なり○本社例祭は世に葵祭と稱し今尙舊様の服製行式により五月十五日を以て執行せらる祇園會は華美を旨とし此は古雅共に偏廢す可らず好一對の神事あり



北野天満宮

官幣中社○祭神は菅原道真公にして別に嗣子菅中將を本殿の東の間に其室吉祥女を西の間に合祀せり尙は宰相殿、和泉殿をも祭る○始め天曆九年三月十二日菅神の託宣により朝日寺の僧最珍右京の女子等力を協せ靈祠を建つ次て天德四年右大臣藤原の師輔猶も神威を敬ひ大夏を改造す已來殿舎壯麗境内の廣き賽人の多き京都幾百神社中此社の右に出るは少きに至れり此社官祭は八月四日私祭は十月四日にして毎月廿五日の小祭も祠前常に小市をなすと云境内老松又梅樹も富初春の比紅白松翠の間に點綴し

平野神社

官幣大社○祭神は源平高階大江四氏則ち今水神(日本武尊、源氏)久慶神(仲哀天皇、平氏)古開神(仁徳天皇、高倅氏)比咩神(天照太神、大江氏)已上四座○境内古來櫻樹多く其爛熳の頃毎夜高く篝火を焼き酒舗茶店は花前に布列し遊客常に填む平野の夜櫻是なり

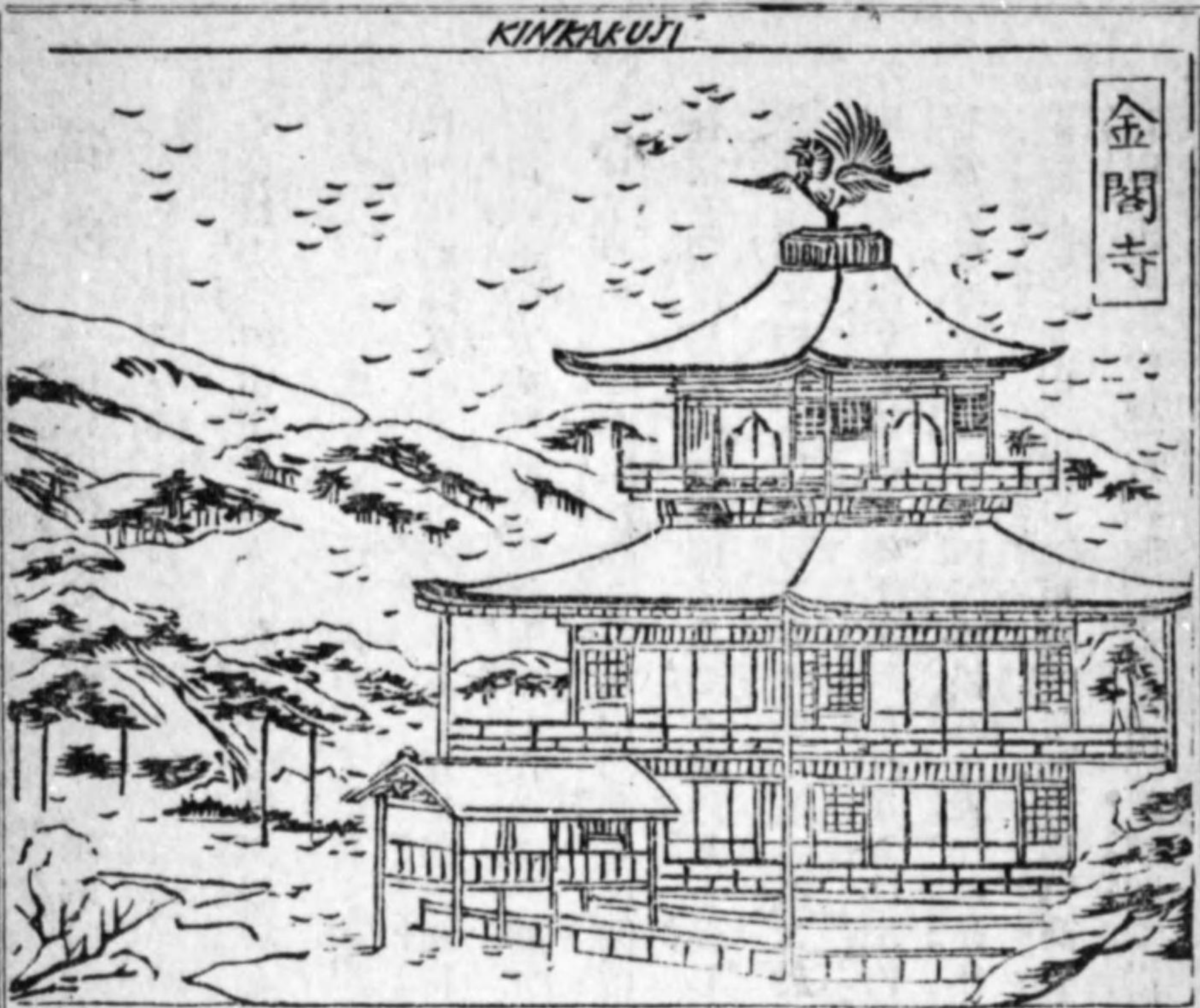
大徳寺

平野の北方紫野に在り○禪宗五山の一○古へより此近傍を紫野と稱へ來りたるを以て世人通常紫野大徳寺と云ふ寺域六萬八千餘坪古松深く鎖して俗氣を忘るへし○開基は大燈國師○伽藍建立の資料は赤松圓心全則祐の寄附○山門は連歌宗匠宗長の造營にして初め開きし後ち千利休樓閣を修補し自己の影像を置き圖らす罪を貴公に得たるは世人の知る處にて今尙ほ其像あり○方丈の門は明智光秀の寄進○當寺の十境は達摩峯、瑞雲軒、看雲亭、金剛軒、古岩松、起龍軒、官地、梅橋、雲門庵、明月橋是れあり○眞珠庵 方丈の●にあり額の一休和尚筆、庵内張付書は蛇足軒筆、當庵は碩徳一休和尚の住居の所なり庭に聖泉井より一休之を銘す○孤峯庵は小堀宗甫の宿坊よて茶室あり○集光院内に千利休の墓あり

建勳神社

別格官幣社○織田信長、信忠二公を合祠す明治二年新に社殿を造營し建勳神社の神號を下賜せらる社地船岡山は古來有名の岡にして名は其形に取ると云ふ

金閣寺



金閣寺

鹿苑寺と云ふ禪宗○開基は瀬石○當所は初め足利義満の山莊なりしか後ち改めて寺とす○境内三重の閣あり下段を法水院或は如來殿或は鏡殿と號し阿彌陀佛(安阿彌作)觀世音(運慶作)勢至(湛慶作)達摩大師、夢窓國師、鹿苑院(義滿)等の像を安置と中段の朝音洞と號し觀音(惠心作)四天王を安す上段は究竟頂と號し堅額の後小松帝震筆、室内三間四面板敷天井平板にして四壁勾欄総て金箔を麗す故に金閣寺と云○九山八海石は池中にあり又池の南に拱北樓巽に小御堂東に地藏堂あり其他庭苑の風景善美を盡す

等持院

禪宗○開基は夢窓國師○足利尊氏の創建にして足利氏累代の木像此寺の昭堂にあり○中門の額は足利義滿の筆○尊氏の塔は昭堂の西傍にあり上に寶篋印塔を立つ義詮の墓は寺脊の山下にあり今墓石なく唯其封境を存するのみ

龍安寺

禪宗○此所徳大寺の舊趾なり細川勝元讓受け文明五年寺を建立す○實の開祖は日峯禮師なれど勝元歸依の故を以て義天和尙を開基とす○堂内天井の龍迦陵頻の畫は兆殿司の筆○方丈は勝元の館を移したるもの勝元の塔は後山にあり前庭池面風景最も佳なり

妙心寺

臨濟宗妙心寺派本山○開基は關山國師○初め清原左大臣夏野の別業にして子孫之を費用したるか花園天皇深く其風景を愛し玉ひ清原氏に替地を與へ離宮となりしに天皇深く禪に歸し玉ひ改めて寺とちし玉ふ茲に於て正法山妙心禪寺と名け親ら方丈の後に一院を建て潛居し玉ふ今の玉鳳院是れなり○境内祥雲院影堂には豊臣秀吉の嫡男樂君の影像を安す境内に老松あり四派の松式は雪江の松と稱し縁起あり○當寺の十境は萬歲山(双の岡)雞足嶺(北山)南花塔(東寺の塔)宇多河、高安灘(全河にあり)度香橋(南門前)齋宮杜、舊籍田(玉鳳院の地)百花洞(玉鳳院内)麒麟閣(玉鳳院内)之れあり

御室

仁和寺、眞言宗本山○三條大橋を距る凡一里半西北にあり○當寺は光孝天皇御願として仁和四年八月創建あり依て仁和寺と號す又昌泰二年十月宇多天皇落飾ありて當寺に入り宮殿御室を構へ玉ふ故に御室又ハ大内山と号す御門跡の號茲に始る○宇多天皇御造營の七堂伽藍應仁の兵燹より罹り今の堂殿は寛永年間の再建○金堂に彌陀觀音勢至を安し祖師堂には弘法大師自作像、脇壇に寛平法皇震影性信法親王御影を安置す○五重塔は四面に五佛を安す○後山に四國八十八ヶ所靈場を撰せり堂舎の間櫻樹多し



御室仁和寺

OMURO

太 秦

廣隆寺、三輪真言二宗兼學〇二條通を嵐山に至る街道に在り〇當寺は聖德太子の近臣秦川勝に命じ建立し玉ふ所なり縁起あり畧す〇本尊藥師佛は向日明神の作、脇士觀音は百濟國傳來、勢至は新羅國傳來にして二尊共金銅の像〇太子堂の聖德太子像は御自作

嵐 山

龜山帝吉野の櫻樹を移し玉ひ春の望觀全邦に冠たり獨り春櫻絶美あるのみならず月に雪に夏は新緑秋は紅葉、時鳥聽くへく螢撲つへく四時の景物皆佳絶なり長虹一帶渡月橋、素練穿翠戸難瀬瀧、横笛投身の千鳥ヶ淵、大堰川を凌鑿せし角倉了以の碑ある大悲閣、此上流は所謂保津川にして之か勝を尋ねんと欲すれば先陸行丹波龜岡に至り船を雇ひて下るを可とす

明治廿七年十二月廿一日印刷
 明治廿七年十二月廿八日發行

（定價六錢）

静岡縣静岡市安西壹丁目七十一番地

著作者兼發行者 山 田 萬 作

同縣同市紺屋町十五番地

印刷人 福 田 銀 藏

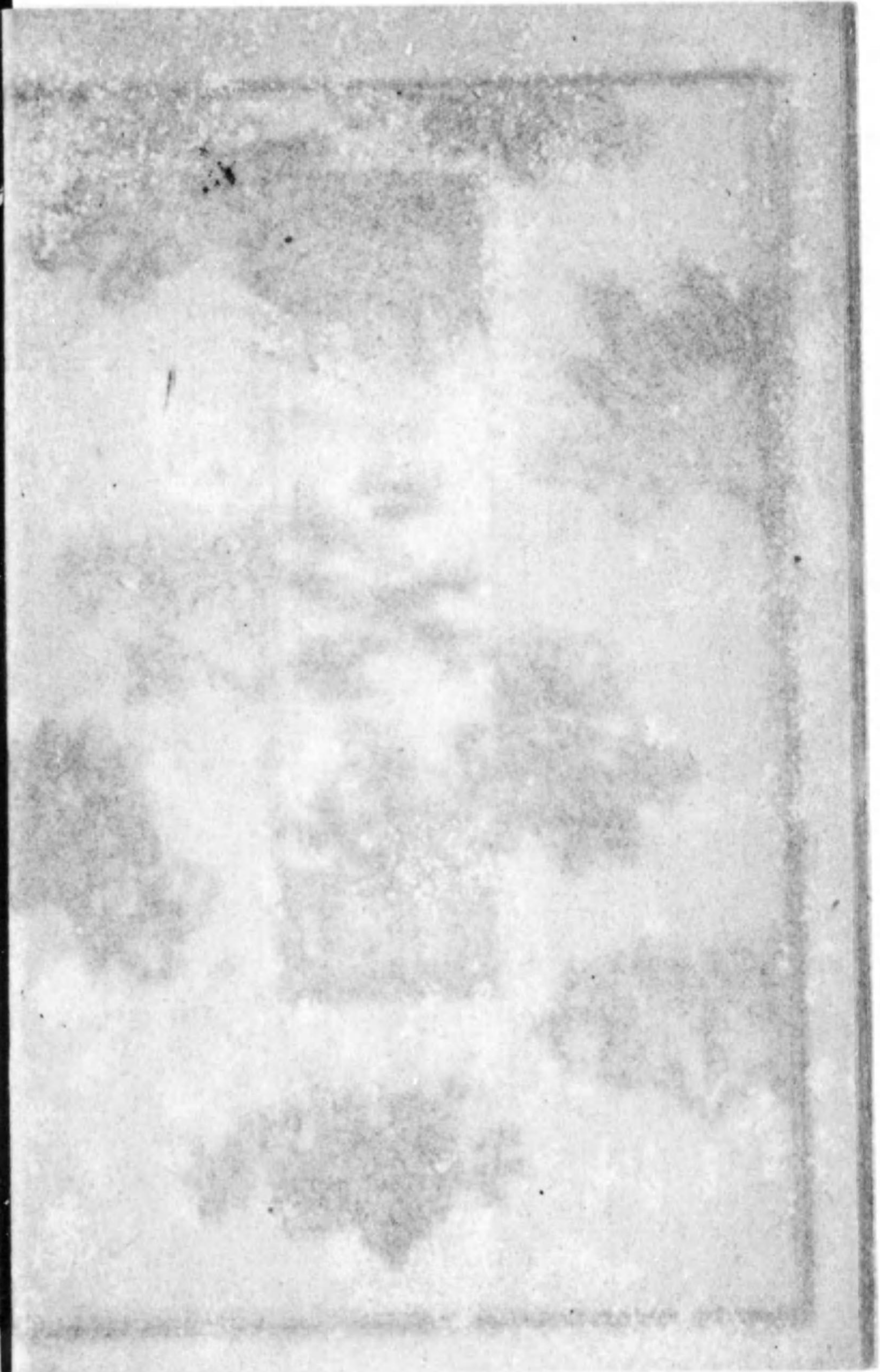


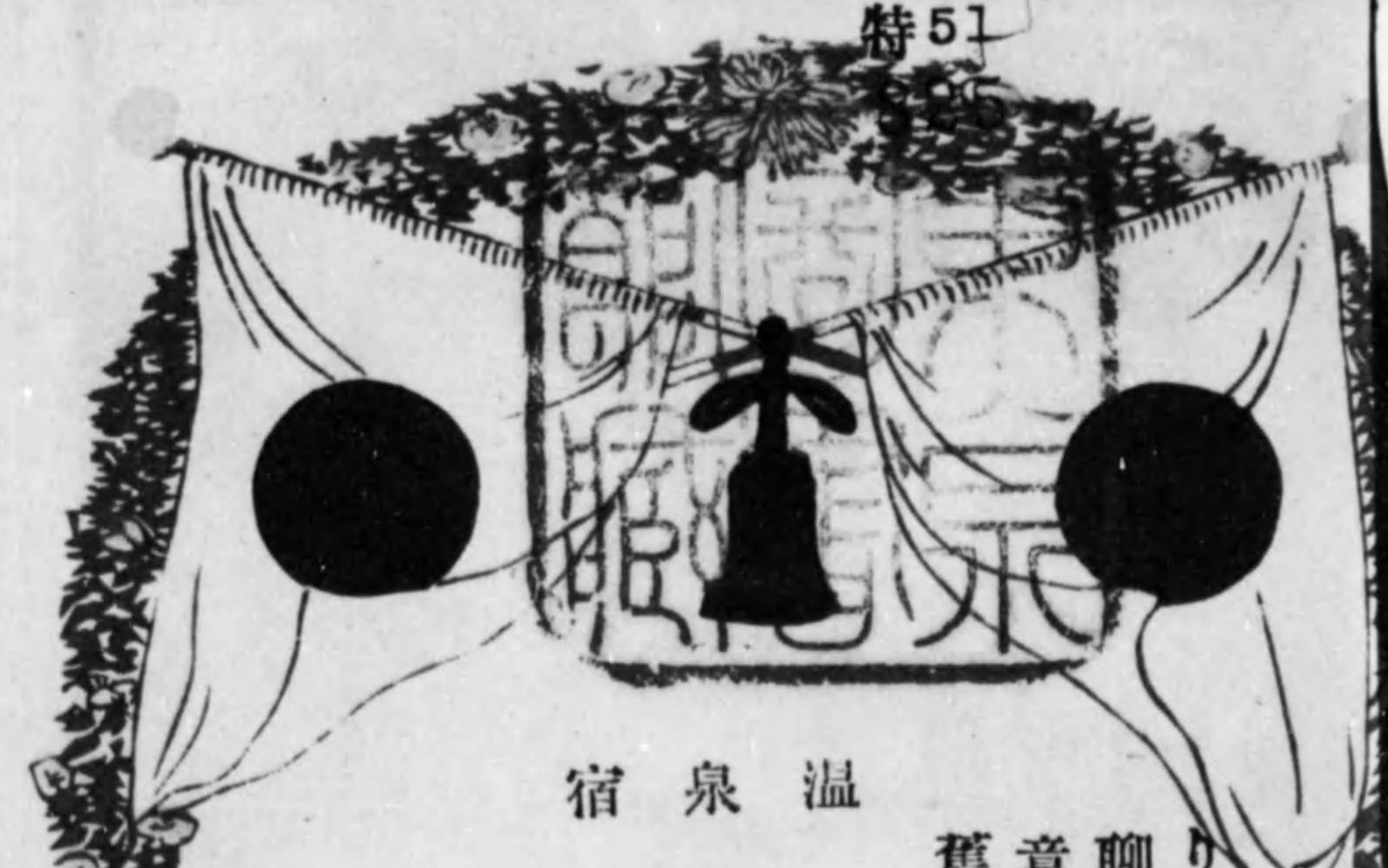
166
28
373

博覧會
紀念
名區

茶

肉





温 泉 宿

養 氣 館

新

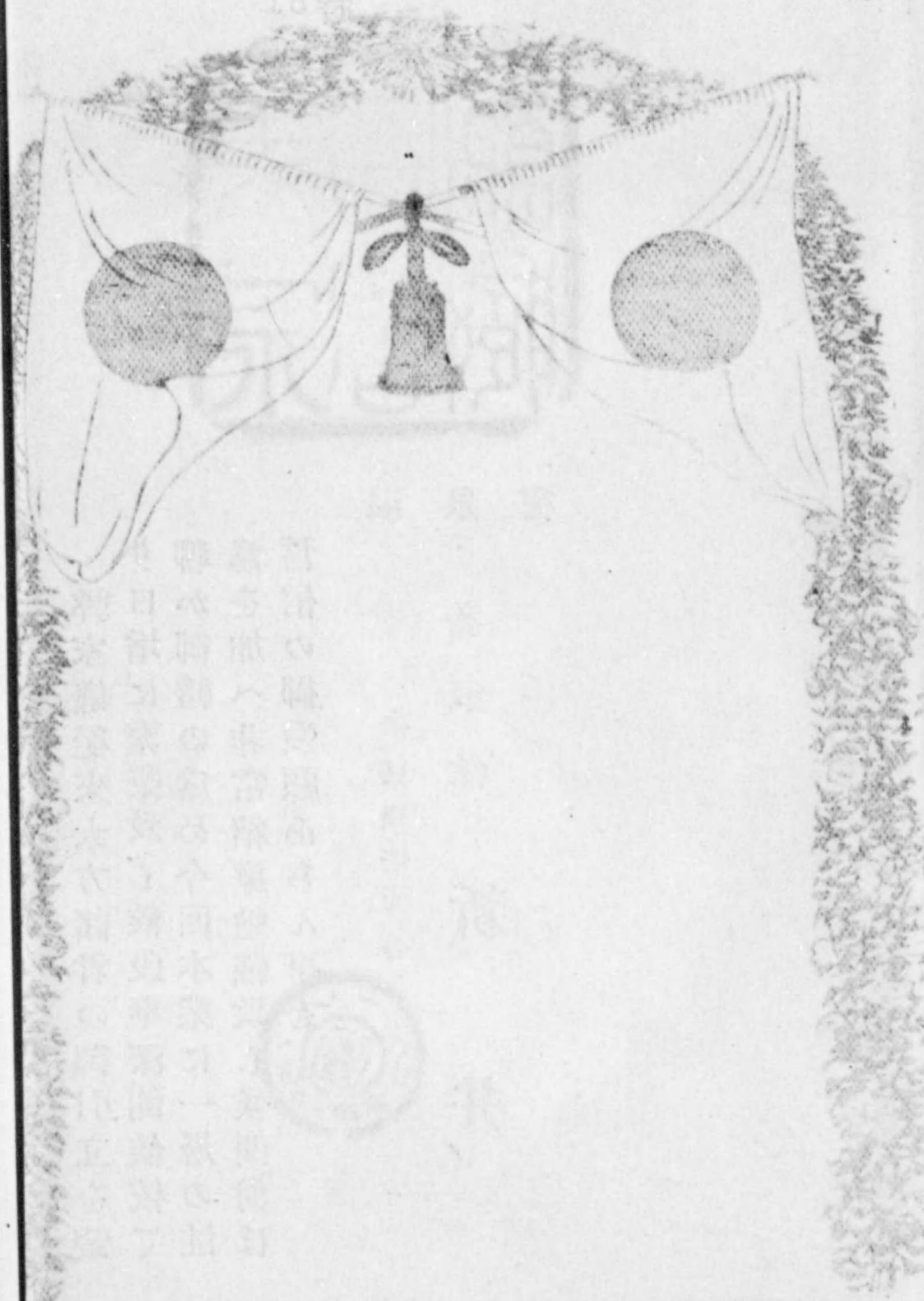
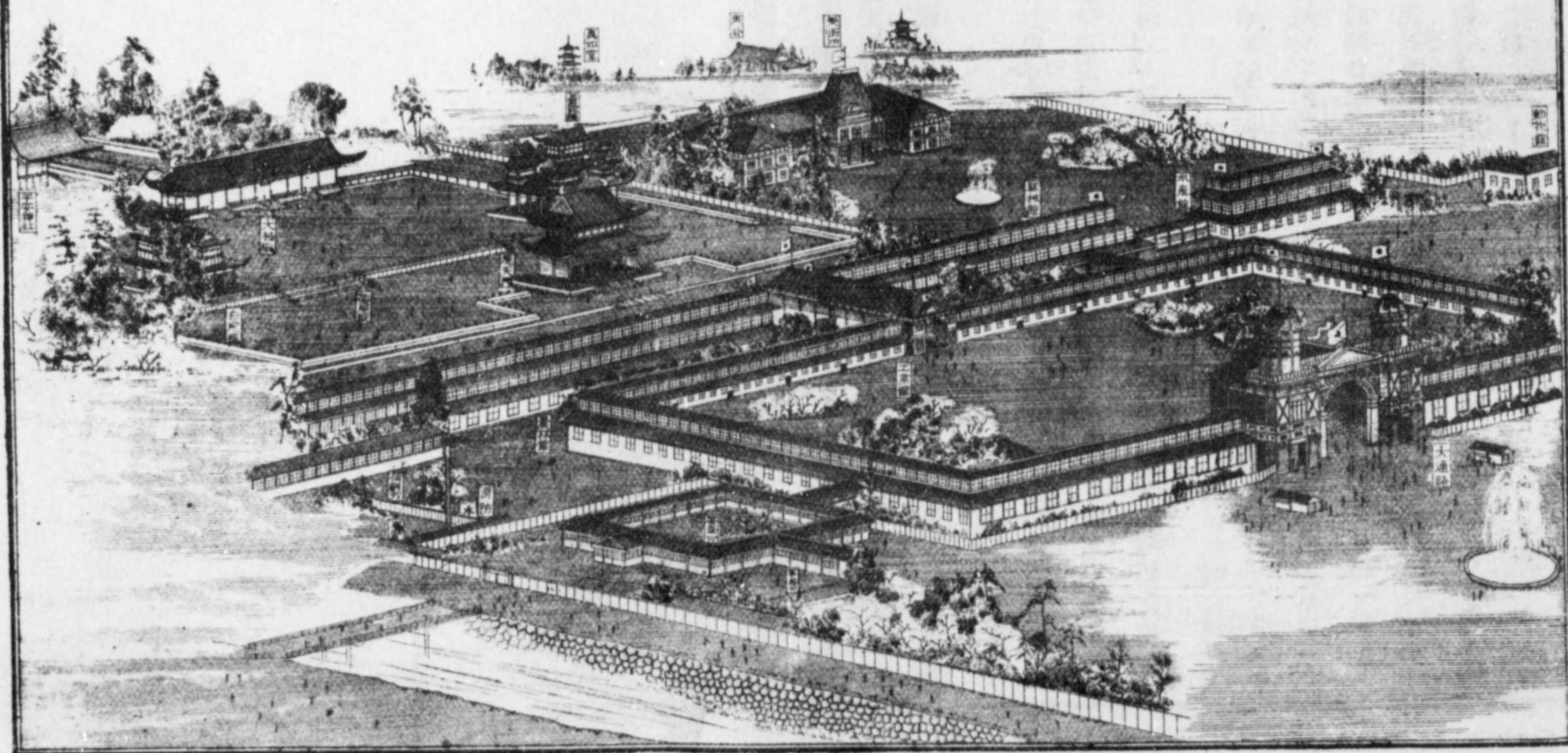
井

伊豆國修善寺



弊家儀從來大方諸君の御引立を蒙
り日増に繁榮致し候段奉深謝候依て
聊か御禮の爲め今回本業に一層の注
意を加へ非常精廉勉強致し候間尙ほ
舊倍の御愛顧あらん事を

圖之成落築建殿極大念紀安平及會覽博業勸國內回四第



緒言

夫京都の地たるや三面遶すに奇峰幽谷を以てし山水の秀景名區の風韻に富み天然の雅致を備へ一夕偶々街衢の塵埃を避け杖を野外に曳けは數歩を出づして乍ち綠蔭鬱茂たる幽域に達し轉た仙境に入るの觀を呈し又神社佛閣の如き薨玉鏘金爲めに管視すれば知らず眩惑を覺ふ其結構美麗なる宏大絶類にして名聲夙に宇内に冠たるは編者の敢て喋々を俟たずして青史に歴然たり其他名勝舊跡に至つては牧擧に遑あらず實に本邦美術の淵藪なれば人誰れか一ト度此の名區を探らざるを得んや

恰も好し本年度を以て地を當市にトし平安翼都紀念祭及び第四回内國勸業大博覽會を開設するに會ふ、抑今回執行に係る紀念祭博覽會の如きは本市未曾有の盛事にして實に關西地方に美術進歩の先鞭を與ふるものなれば苟も勸業を圖り美術を好むの諸彦は此際必や本市に益まざるを得ず

本市は初項の如き天工の勝景と人造の美術とを備へ加ふるに二項の如き一大美擧あり然らば則ち其季節に到らば他邦より參觀人踵重陸續來集するは期して待つ可きなり此の時に方り毫

も其案内者なきは余の最も遺憾とする處なり故に聊茲に見るあつて本書を編纂し、一は以つて來賓諸客をして巡覽の辨に供し、一つは以て今回の盛舉と本市の光景とを世人に紹介せんと欲する謂以なり

本書は繁を省き簡を採り頗る輕辨を旨としたれ共書中載する所の大極殿、博覽會圖より尋て名勝、舊跡、由緒、盛衰、沿革等の記事の如きは當局者の親査に頼り又は實地を履み最も確實に尤も鄭重に嚴正なる証左と材量とに依り長月間の日子を費し數巡の調査を遂げたる者なれば世上幾多の平凡たる類似出版物と同一視す可き者に非ず依て參觀者は勿論貴賤を論ぜず道俗の間はず常に一本を求め座右に備へ朝開幕閱して快樂を味ふの好冊子なりとす然れ共限りある紙面悉く網羅し去て餘さざる能はせ故に其銘細を識らんと欲せば請ふ他に正確なる大部に依り本書の輔飲に充てん事を

明治二十八年十二月

著者 馨佳誌



大博覽會
京都紀念祭
京都名區
案内記全

御所

舊内裏御苑の中央方位にあ

り現今のは孝明天皇の御宇安政元年炎上
同二年の御造營外廓東は寺町通、西は烏
丸通、南は丸太町通、北は今出川通なり其
面積貳拾五万余坪、博覽會場、測候所等は
其間に點在し就中堺町御門の西偶舊九條
邸の庭池は最も幽雅の清趣を占む内廓は
建禮門(南門)を以て正門とし紫宸殿は門
内更に宮垣を遶らし清涼殿、清所、常御殿
二對屋、一對屋、内侍所、記録小御所○女

院御殿、御學問所、御宮所等の宮殿雲臺櫺比たるも九重雲深ふして其奥を窺ふ能はず其壯嚴なる誰か無窮萬歳を祝さざらん

仙洞御所

御所の東南に在り舊と上皇の震宮にして従來京都博覽會開設中は衆庶の拜觀を許さる奇石苔深く老樹枝暗ふして林泉の幽邃なる塵寰の外に脱するの想あらしむ

京都市

山城國の中央に在り東は淨土寺、鹿ヶ谷、南禪寺等の山嶺を以て東山道近江の國に界し粟田口、清閑寺、今熊野等の山を以て宇治郡に亘り所謂東山とは其一帶の山脈を稱するなり南は紀伊葛野二郡の北部に連り西は大内、七條、朱雀野の三村に接したり東北は鴨河を隔て、愛宕郡下加茂田中の二村と相臨みて北は同郡の鞍馬口、小山、東紫竹大門の三村を負ふ東西凡壹里南北凡一里半餘之れを二區に分畫し三條通以北を上京區とし以南を下京區とし通計戸數六萬四千五百七十六、人口貳拾九萬六千六百三十九人を有せり

桓武天皇以降一千有百年の連綿たる帝都にして地味膏腴、風景秀麗、水青山秀、街衢潔整、名祠古刹に富み繁華と閑雅を併有するもの全國に冠たり氣候は幾内沿海の國に比すれば較峭寒なるが如しと雖も寒國と稱す可らず風俗は儉素にして能く業務に勤む飲食に節にして衣

服に奢る俗に京都の着倒れと云ふ物産は織物、縫箔、染物、糸打紐類、金銀箔、陶器、漆器、紅白粉、京人形、伏見人形、針、扇、團扇、錫細工、藤、晒木綿、毛糸細工、樂器類、花簪、鶯不知、乾菓子、千枚漬、砥石、石材、黄土、漬菜類、藥草、茶、梅實、栗、杉、竹、筍、松茸、鯉、鮎、鰻、年魚の類其主要なるものにして今や帝都東遷大に往時の繁盛を減殺するが如しと雖も皇居は依然として舊内裏に保存修繕せられ二條、桂修學院等の離宮比に散在し日本宗教の中心となり諸國信徒來り賽するもの毎年萬を以て數つ未だ衰頽に歸したりと云ふ可からず矧むや疏水鴨川の運河既に成りて風光明媚に一段の光彩を副へ又水力電氣を利用して近頃電氣鐵道の新事業を以てし大に其繁盛を回復せんとするものあり第四回勸業博覽會を地方に開設するに第一に此地を以てす抑故ある也此地より東京及近府縣廳所在地に達する道程左の如し

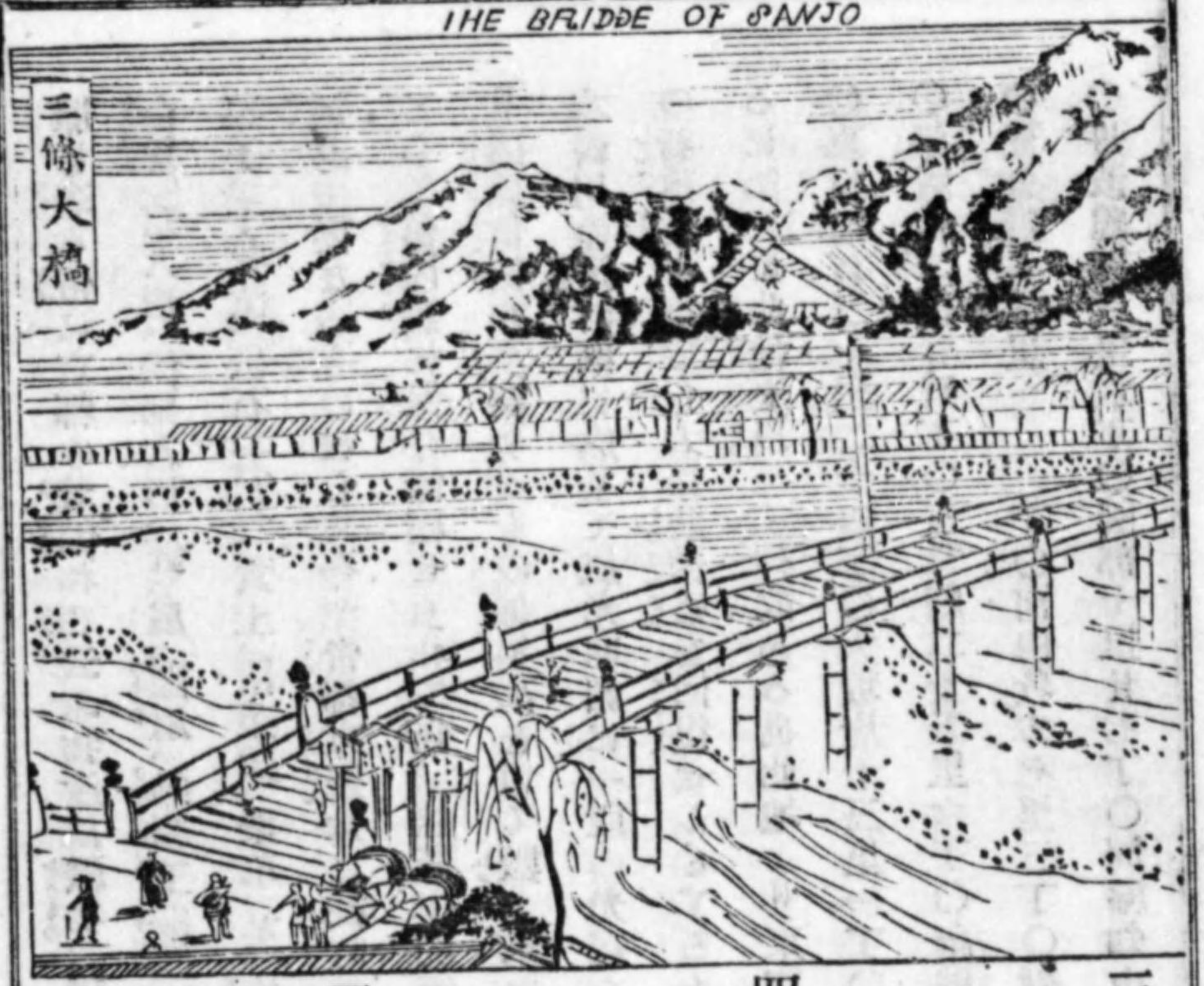
○東京府百三十里二十四丁○大坂府十三里一丁○兵庫縣廿三里一丁○奈良縣十里廿七丁余

○滋賀縣二里廿五丁○三重縣二十五里六丁○福井縣四十四里三丁○岐阜縣 十 里 丁

○愛知縣 十里 丁○河内牧方七里三丁○攝津高槻七里廿丁○伊賀島原十四里二十丁

○丹波龜岡六里六丁○園部十里廿七丁○同福知山廿二里三十五丁○丹後宮津卅一里廿四丁

THE BRIDGE OF SANJO



三條大橋 三條通鴨川にあり豊臣秀

吉の命を奉じ大谷吉隆の架る處ろ三大橋の
一にして諸街道、諸名區起點、里程元標
の地なり依て挿画第二に置き標準に便す

四條大橋 京都唯一の鐵橋にて四條

通り鴨川に架り夏時軟砂清流の邊床を架
し店を連ね紅燈幾萬綺羅星の如く以て半
宵の涼を貪る謂所四條の納涼迎東京兩國
の涼と東西相應す其盛世の知る處なり

五條大橋 維新の際一時擬寶珠を廢

したるも今や皆な古風ふ復し優美なり或
は云ふ五條通は今の松原通にして現今松
原橋の架する處五條橋を架りと牛若辨慶

の故事あるより旅人必ず一見するの名橋なるを以て暫らく疑を存す、此他七條通に七條橋あり五條橋の北に松原橋三條以北に二條橋、丸太橋、御幸橋、出町橋、葵橋の七橋あり葵橋は葵祭渡御の繪圖にある有名の橋とす下加茂社の附近にあり

二條離宮

舊二條城是れなり永祿十二年織田信長始めて築く處にて同年四月之を足利義昭に與ふ後ち本能寺の亂に明智光秀の爲に燒かれ一時荒廢に歸し其の後慶長七年徳川氏再び之を興す城は二條通堀川の西岸に屹峙し川に面する東門を正門とす維新の際太政官代に充てられ次て京都府廳に供し今は宮内省の所屬となり終に離宮に充てらる尙處々に城樓を存し聖壁石壘巍然として市内の壯觀をなせり

護王神社

別格官幣大社和氣清麻呂公を祭る鳥丸通下長者町の御苑の西手に在り

梨木神社

別格官幣大社、寺町廣小路に在り故三條實美公の父贈右大臣三條實萬公を祀る

相國寺

御苑の北同志社の隣りに在り萬年山相國承天禪寺と號す、禪宗五山第二、開

基夢窓國師、永徳三年足利相國義滿の建立、山門は圓通閣、池は功德池、三重塔は後水尾帝御再建、黃門定家墓普光院にあり、藤原腥窩先生の墓、東征戦亡の碑は西郷南洲の筆

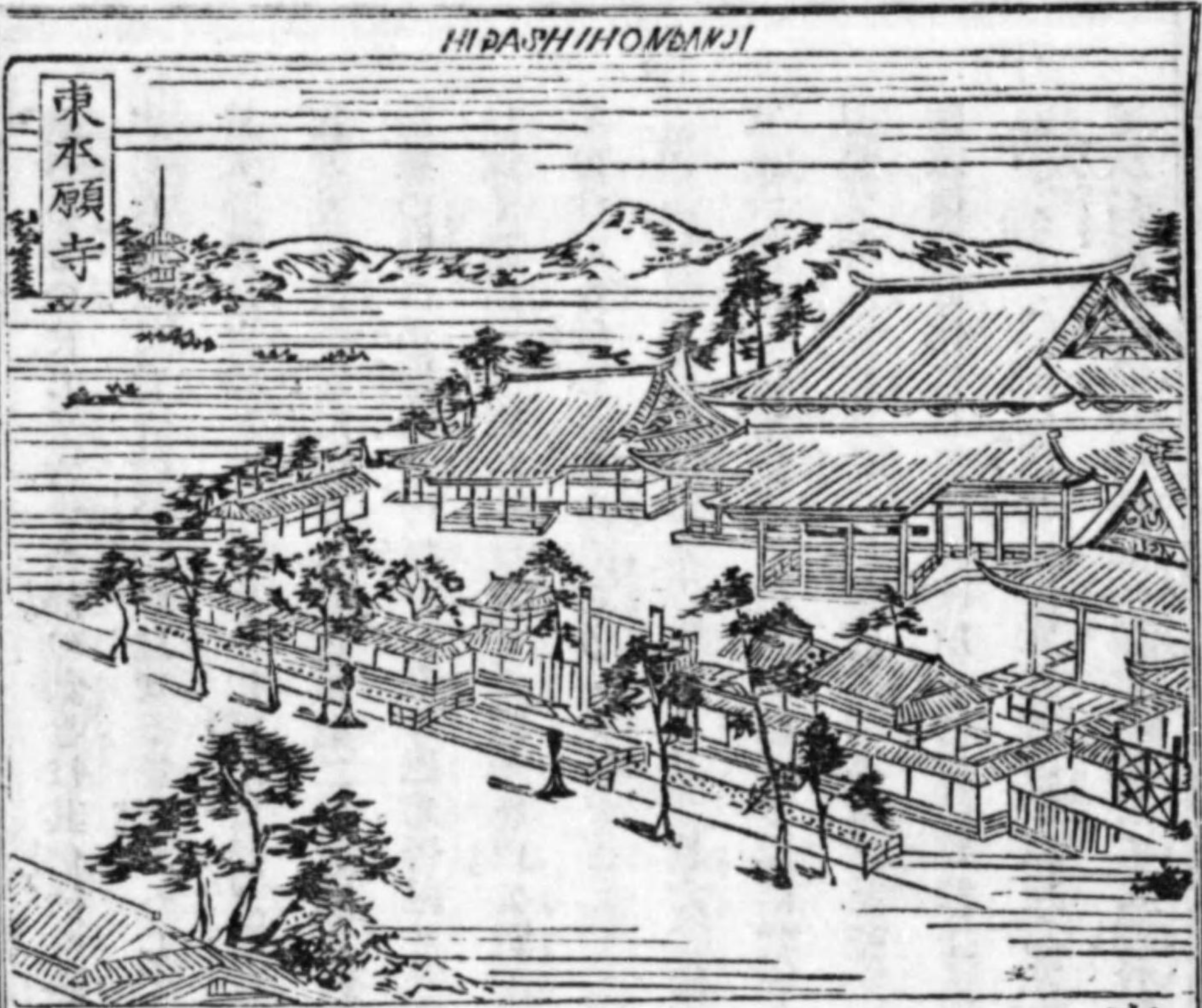
本能寺 寺町通り押小路にあり織田右府弑殺さるゝは六角通油小路にて今も其地に本能寺町の名あり日蓮宗の本山開基は日隆上人永享三年の建立なり

新京極

三條通寺町の東南にあり各種の玩弄品店、飲食店、諸興行物等櫛比鱗次び晝夜となく人山を築く蓋し闔市第一の熱市地たり、誓願寺、浄土宗深草流義の本山、創立は天智帝の勅願にして秀吉の愛妾松丸の塔前にありしと傳れと境地縮小して今は跡を止めぬ鮎薬師、初め叡山にありしを後移轉し境内水澤あり澤薬師と稱せしを後ち傳訛して鮎薬師と稱す笑ふへし 錦天神、祭神菅公、地華繁の中心に位す都鄙賽客陸續絶踵す、和泉式部墓誓願寺の内數百歩の左傍に一基の石塔あり塔側に一株の古梅あるを軒端の梅と云ふ

西陣

應仁の亂山名持豊細川東陣の西に陣せり依て地名とせり京都市の西北隅に位堀川以西一條以北の地を謂ふて織工の群住する無慮一千戸往時は錦綾絹等を纏頭に織しが今は皆諸會社等にて器械を利用し織るを以て此地見るに足るものなし



東本願寺

大谷派本願寺鳥丸通七條上る町にあり當寺草創は本派本願寺第十一世顯如上人の嫡子教如上人慶長七年徳川家の台命にて六町四方の土地を受け新に堂宇を建立し東本願寺門跡と稱す、堂殿は數々回祿に罹ると雖も先年來末寺信徒等の奮勵に依て更に間口四十間余二重屋等の構造美麗宏壯なる祖師堂及び間口十八間計り精好なる阿彌陀堂又は廻廊等を建築し畧は竣工す今春を以て佛會を行と云ふ其他殿舎、樓門、鐘撞堂等今大に計畫せり且往年建築用に供せし數十丈の髪繩は信徒各自ら頭髮を切りて相集め繩に

綱へるものにして六十余條の如きは其信徒の熱心堅固精勵なる看者をして轉々驚嘆に堪へざらしむ以て當寺の隆盛無比なるを想ふへし、當寺の本尊阿彌陀佛は安阿彌の作にして見真大師像は自作なり、東殿 枳穀邸は問之町珠數屋町にあり河原院の舊蹟にして當寺の別館なり庭園の宏壯幽棲なる當市第二の庭園に數へらる池水は高瀬川を引き常に溶々たり臨池殿の庭は小堀遠州の好みにして風光奇絶なり常に參詣の善男女堂前に蟻集り春季の如きは遠く諸國より來賓する者日々數千を以て數ふへく近傍の旅店及び佛具店は之に依りて一年の生計を營むもの多しとろ

佛光寺

高倉通佛光寺町にあり 眞宗、佛光寺派本山、當寺門跡號は後土御門帝御宇寛正六年十三世光教上人敕許を蒙れり尙ほ當寺草創の由縁は興正寺の條下を見よ、本尊見真大師影像は自作、阿彌陀堂 本尊は慈覺大師の作、脇壇の聖德太子像は自作、圓光大師木像は自作にして大師配所下向の時親鸞上人に附屬せられたるものなり

平等寺

一名因幡藥師堂と云ふ松原通烏丸にあり、本尊藥師如來の由來を尋ぬるに元と天竺祇園精舎の一院に安置せる處にして釋尊梅檀木を以て刻み玉ひし尊容なり後飛來し

て因幡國加露津の海底に沈めり天德三年橋好古の孫行平之を引上げ長保五年行平の居館に飛來り玉ふ其時行平、碁盤を以て蓮坐に代ゆ其碁盤今にあり其後京師に歸り其第宅に佛殿を新營建立して之に移したり現時の堂は足利義教の再建にして以後五百余年間風火の災を免れ今に巍々として永存し參詣常に群集なり

御影堂

新善光寺と稱す五條通寺町西へ入る町にあり 天長年間檀林の皇后の本願に依り弘法大師の開基する處なり、此寺元來信州の善光寺の阿彌陀如來を摸擬りたる影像を本尊としたるを以て御影堂と號したりと雖も今は別像を更置せり、往昔平敦盛の室蓮華院尼當寺に閑居して阿古女扇を製す當時 後嵯峨帝御惱に罹らせ玉ひ當時住職其扇に呪文を書し内裏に奉りし爲に御平癒あらせ玉ひしかば 天皇御感まし〜皇子を降下し僧として當寺の衰頽を抱回せしめ玉ひし等の事あり是より扇を製するの吉例とするに至れり夫の演劇の作に扇屋熊谷と題するものあるは此蓮華院尼の故事に據て脚色したるものと知るべし

新玉津島社

松原通玉津嶋町にあり、祭神は紀州の和歌の浦玉津嶋社と同體にして衣通

姫を祀る三位俊成卿の此地に勸請にて歌詠の冥助を禱る處なりと云ふ

絢へるものにして六十余條の如きは其信徒の熱心堅固精勵なる看者をして轉々驚嘆に堪へざらしむ以て當寺の隆盛無比なるを想ふへし、當寺の本尊阿彌陀佛は安阿彌の作にして見真大師像は自作なり、東殿 枳穀邸は問之町珠數屋町にあり河原院の舊蹟にして當寺の別館なり庭園の宏壯園榭なる當市第二の庭園に數へらる池水は高瀬川を引き常に溶々たり臨池殿の庭は小堀遠州の好みにして風光奇絶なり常に參詣の善男女堂前に蟻集り春季の如きは遠く諸國より來賓する者日々數千を以て數ふへく近傍の旅店及び佛具店は之に依りて一年の生計を營むもの多しとろ

佛光寺

高倉通佛光寺町にあり 眞宗、佛光寺派本山、當寺門跡號は後土御門帝御宇寛正六年十三世光教上人敕許を蒙り尙ほ當寺草創の由縁は興正寺の條下を見よ、本尊見真大師影像は自作、阿彌陀堂 本尊は慈覺大師の作、脇壇の聖德太子像は自作、圓光大師木像は自作にして大師配所下向の時親鸞上人に附屬せられたるものなり

平等寺

一名因幡藥師堂と云ふ松原通烏丸にあり、本尊藥師如來の由來を尋ねるに元と天竺祇園精舎の一院に安置せる處にして釋尊栴檀木を以て刻み玉ひし尊容なり後飛來し

て因幡國加露津の海底に沈めり天德三年橘好古の孫行平之を引上げ長保五年行平の居館に飛來り玉ふ其時行平、碁盤を以て蓮坐に代ゆ其碁盤今にあり其後京師に歸り其第宅に佛殿を新營建立して之に移したり現時の堂は足利義教の再建にして以後五百余年間風火の災を免れ今に巍々として永存し參詣常に群集なり

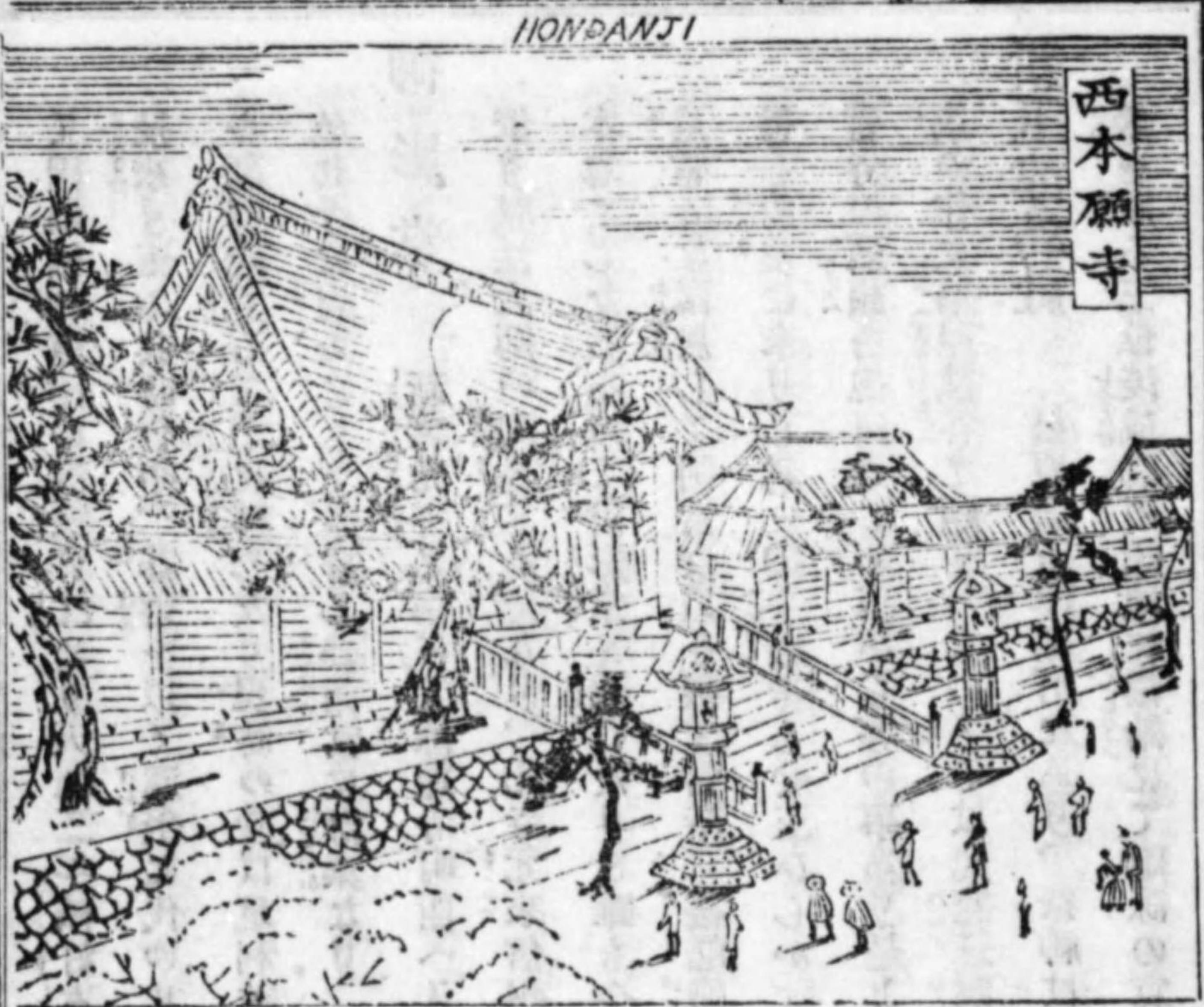
御影堂

新善光寺と稱す五條通寺町西へ入る町にあり 天長年間檀林の皇后の本願に依り弘法大師の開基する處なり、此寺元來信州の善光寺の阿彌陀如來を摸擬りたる影像を本尊としたるを以て御影堂と號したりと雖も今は別像を更置せり、往昔平敦盛の室蓮華院尼當寺に閑居して阿古女扇を製す當時 後嵯峨帝御惱に罹らせ玉ひ當時住職其扇に呪文を書し内裏に奉りし爲に御平癒あらせ玉ひしかば 天皇御感ましし、皇子を降下し僧として當寺の衰頽を抱回せしめ玉ひし等の事あり是より扇を製するの吉例とするに至れり夫の演劇の作に扇屋熊谷と題するものあるは此蓮華院尼の故事に據て脚色したるものと知るべし

新玉津島社

松原通玉津嶋町にあり、祭神は紀州の和歌の浦玉津嶋社と同體にして衣通姫を祀る三位俊成卿の此地に勸請にて歌詠の冥助を禱る處なりと云ふ

西本願寺



西本願寺

本派本願寺、堀河通り七條にあり現時真宗の隆盛なる實に日本佛教の勢力一に此に湊ると云ふも不可せし、當寺草創は龜山帝の御宇文永九年親鸞上人(見真大師)の息女覺信尼勅を奉じ洛東大谷に大師廟堂を建立し勅願所として龍谷山本願寺の號を賜ふ及御門跡號の勅許を蒙り其後屢々戦亂に曾し大津、山科、攝津難波、紀州鷲の森、泉州貝塚等に移轉し遂に天正十九年第十一世顯如上人の時攝津の天滿より遷り茲に基礎を定めたるものなり、御影堂建築の結構は紫雲殿の模形にして頗る壯嚴且つ宏大なる者なり

り間口三十間なり堂内正面に燦爛たるは、今上天皇恩賜の勅額なり、本尊大師像は自作にて覺信尼に附與せらるゝ處なり大師滅後遺骨を細末になし漆に和して影を潤色せり故に骨肉の御影と稱す南北脇楹には前住及び歴代上人の畫像を、餘間には九字十字の名號(寂如上人の筆)を安置す○阿彌陀堂 本尊は春日の作、脇楹には六高祖画像を餘間には聖德太子、圓光大師の画像を安置す○對面所 繪畫は長谷川了溪筆○白書院 繪全筆、前に能舞臺あり○黒書院 繪は狩野探幽筆○鐘堂 鐘は舊太泰廣隆寺にあり信西入道の銘にして名物なり○太鼓堂○唐門 舊豐國社にありし者にて彫刻は希代の美觀なり○滴翠園 虎の間の東南にあり高樓を飛雲閣と號す秀吉公聚樂亭の遺物なり、上閣の畫は霞の富士、中間の畫は三十六歌仙共に古法眼元信西○前庭には滄浪池、囑月坡、龍背橋、踏花場、夜光石、胡蝶亭、青蓮櫛、醒眼泉其他花鳥の風景ありて清幽閑雅、美妙の芳園なり當寺も東本願寺と同じく春季參詣人雲集る

本國寺

西本願寺の北にあり○日蓮宗大本山○日蓮上人の開基○當寺初め相州鎌倉枉葉谷に建立あり法華堂と名く當宗最初の寺なり貞和元年光明帝の勅に依り今の地に移轉す

此地は舊六條判官爲義の邸宅なり○本堂 法華經を本尊とす日助筆○立像堂 釋迦佛を安置す○祖師堂 日蓮、日朗、日印、日靜、日傳の像を安す○方丈 此建物初め江州安土城にあり後ち中納言秀俊の館となし次で此地に移す額は水戸黃門光國筆、室内の畫は狩野永徳筆○入麿社 方丈の庭にあり足利尊氏樓閣を此所に築き觀柳亭と號す○境内に清正公の社あり

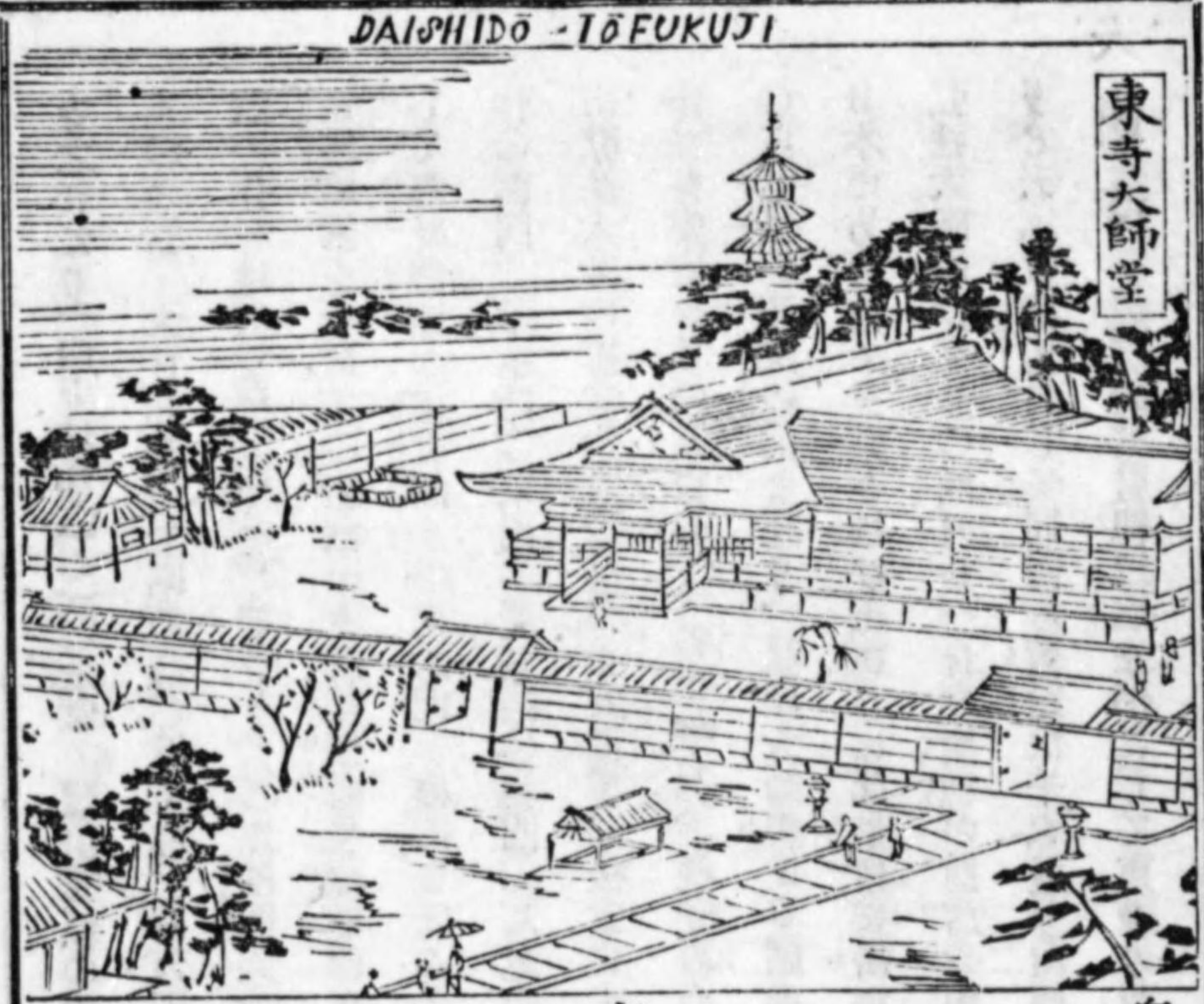
興正寺

本願寺の南にあり○真宗興正寺派本山○當寺草創は見真大師四十歳の時山科郷に一字を建立し高弟眞佛上人に附與せられたり後ち比叡竹中の庄澁谷に移轉し後醍醐天皇の御宇本尊瑞光を放たれしに依て佛光寺と改號し勅額を賜ふ十四世經享上人に歸し新たに一堂を建て舊號を用ひ興正寺と稱す後ち顯尊上人の時門跡號の勅許を蒙り天正十九年今の地に移り久しく本願寺末流となりしが維新後分れて一派の本山となれり○本尊 阿彌佛は安阿彌の筆なり其結構西本願寺に及ばずと雖も亦眞宗興正寺派の本山たるに差ぢず

菅大神社

西洞院佛光寺筋の北にあり菅と菅公の父是善卿の第趾に屬す菅公誕生の地なり飛梅の舊趾は社の西南隅に在り菅公産湯の水は社の東垣の内に存在す

DAISHIDŌ - TŌFUKUJI



東寺大師堂

島原遊廓

西本願寺の西手に進み裏片町の南方より右側に入れば遊廓の出口の柳は大門の右にあり嶋原の名は此地開始の際恰も肥前嶋原の騷亂ありしを以て世人其賊が城廓を構へ天下を騷亂したるに比し戯れに命名したるに初まるとい云

東寺

眞言宗大本山○八條通り八條村にあり八幡山教王護國寺は其本號にして俗に東寺又は左寺と云ふ 桓武天皇の御宇朱雀門(羅生門)の東西に伽藍を建立し玉ひ其後嵯峨天皇の御宇其西部即右方にあるものを奈良の守敏に賜ひ東部即ち左方にあるを弘法大師小賜ふ今の東

寺之れなり(西寺は今亡し)○金堂 豊臣秀頼の再建にして内に薬師佛、日天、月天を安置す○講堂 大日如来、金剛菩薩、五大尊、四天王を安置す○金堂 本尊千手千眼観音(聖寶の作)地藏(古へ西寺にありしもの)毘沙門天(古へ羅生門上にありしもの)を安置す○五重塔四佛を安置す○寶藏 大師の法器を藏む○瓢箪堀 寶藏の前の池を云ふ池中蓮の繁植して夏時観蓮の客充滿す○南大門 樓門を云ふ金剛力士を安置す東は運慶の作西は湛慶の作○西門 華蓮門○東門 慶賀門○北門 八足門○猫瓦 南の築地の上にある○西院 開山弘法大師の影(法眼康勝筆)を安置す、後堂に大日、不動、四天王、般若菩薩(弘法大師作)を安置せり○五寶石(一名不動石) 後堂の白砂にあり○松子松房 西院の西北にあり○三鉢松 西院の前に在り、弘法大師唐より歸朝の時我密教相應の地あらは止るべしとて日本の方に向て三鉢を投げ玉ひしに此松枝に掛かれり依て名く○大黒天 西院の傍に安す弘法大師の作なり○例月廿一日は諸種の露店寺中に充滿して諸人群集す羅生門は當寺にありと云ふは謬傳にして同門の舊趾は千本通り四塚にありと云ふ

大通寺

三論真言律三宗兼學にして東寺の西北にあり○當寺は六孫王の舊邸宅の地なり



り天徳五年經基公逝去の時此に靈廟を築く後ち二位禪尼三位禪尼心を合せ當寺を創立し眞空律師を請して開基となすと云庭は盧山を摸し風景絶妙なり

東福寺

伏見街道一の橋の下にあり

禪家五山の第四なり○開基聖一國師○願主 九條道家公にし寛永元年の建立○樓門の額、妙雲閣は足利義持の筆、閣上に釋迦佛、善財童子、月蓋長者、十六羅漢を安す本尊周圍の彩色は兆殿司の筆又天井の畫は寒殿司の筆○有名美觀たりし佛殿及び方丈は往年火災に遇ふ○當寺の涅槃像は兆殿司五十七歳のときの揮毫

にして本朝無比の名畫なり涅槃會に之を掲ぐ○通天橋の額は普明國師の筆通天の西橋を臥雲橋と云ひ橋下の溪を洗玉洞と名く此邊楓樹多く秋景清逸恰も神仙境裏に遊ぶの觀あり

稻荷神社

東福寺門前より南凡十町にあり 官幣大社○祭神は倉稻魂命、素戔鳴命、大市比賣神三座○草創は元明帝和銅四年二月午日稻荷の神當山に出現し玉ふ(初午祭を行ふ由縁あり) 次て祠を建つ延喜八年藤原時平三社を三ヶ峰に造營し永享十年今の地に移轉せり○當社に神輿五基あり其美麗精好なる見る者驚歎せざるなし○當所は山城第一の繁榮神社にして參拜人日に多し○社境稻荷山に據りて頗る廣潤社殿、宏壯にして華麗なり、例祭は毎歲五月七日を以て執行し儀式嚴肅なり社前の市街は稻荷御前町と云ひ茶店軒を接して四時客跡繁く伏見人形を販賣する店略ぼ是より北に連れり、又東海鐵道の稻荷停車場は本社華表前にあり頗る賓客の便に供すること多し

泉涌寺

三十三間堂の東南十丁にあり 天臺眞言律禪四宗兼學○當寺初め弘法大師の開基にして法輪寺と號す文德帝御宇左大臣緒嗣公再建して宗を改め天臺となし仙遊寺と號す後建保六年中興俊芳律師住職已來四宗兼學し又山麓に靈泉湧出せるが故に泉涌寺と改稱

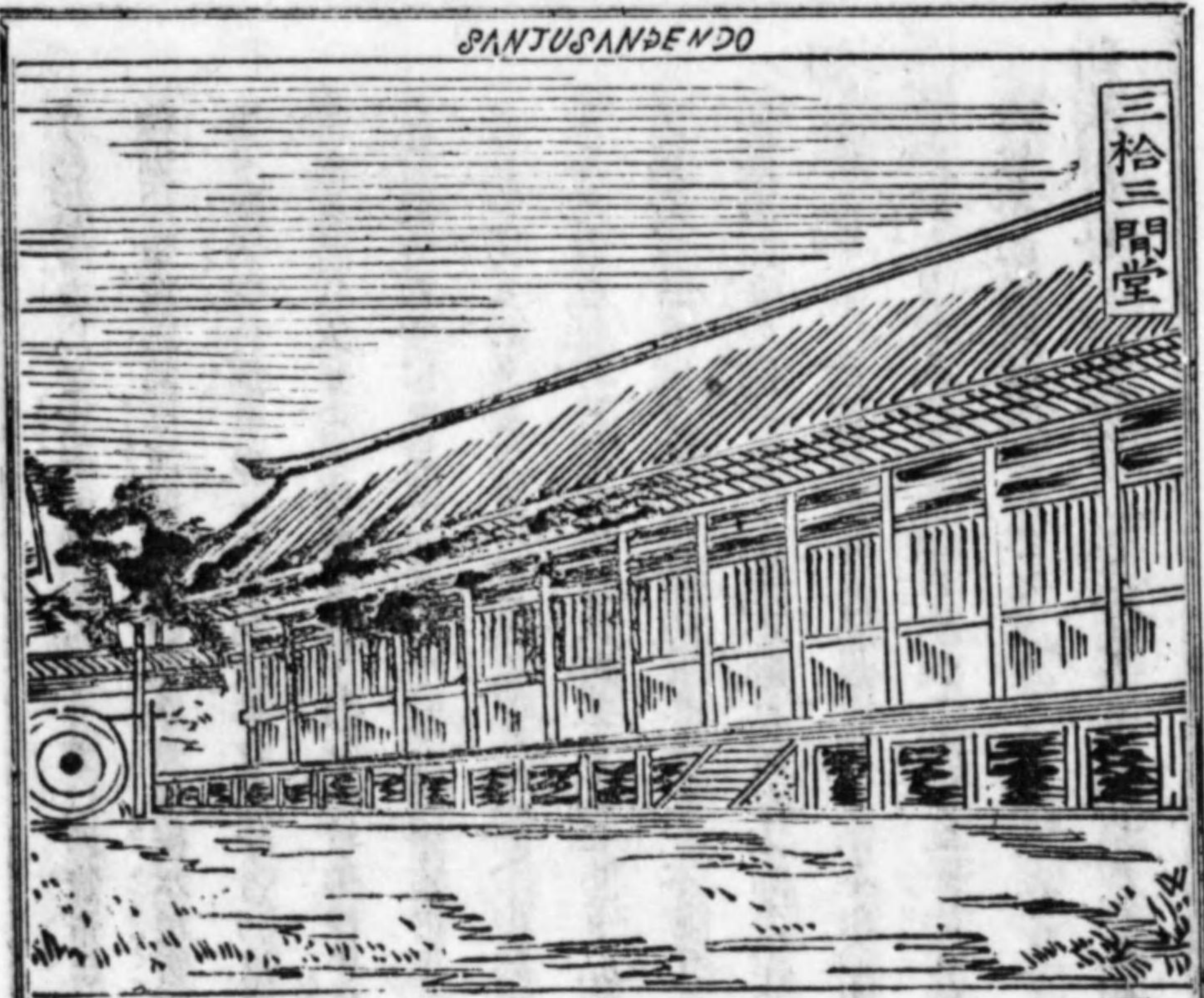
す○當寺を以て官寺と定めらる、事は四條帝より始まる○中門の額は張印の筆○本尊彌勒釋迦、彌陀三佛は運慶の作○釋迦堂は後水尾帝御建立○觀音堂本尊は玄宗皇帝の作(緣起あり洛陽觀音巡りの一)舍利殿本尊佛牙舍利は二重の金堂に安す○靈明殿の額は後西院震筆内に歴代天皇の尊儀を安置す泉涌水は佛殿の傍にあり又仙遊石は山上にありて歷朝の帝陵皆此寺の後山にあり是を以て現今の帝室の遇せらる、や最も鄭重を加へ給ふと云々○來迎院 方丈の北にあり、開基は弘法大師、中興は知鏡和尚、本尊脇士共に運慶の作、荒神殿本尊は弘法の作、獨鈷水は神殿の前にあり弘法大師獨鈷を以て穿てりと云々○觀音寺 新熊野觀音と號す、來迎院の北にあり、本尊十一面觀音は弘法大師の作にして西園並に洛陽順禮觀音の隨一なり脇士不動は智澄大師の作、毘沙門は運慶の作

知積院

養源院の東にあり 眞言宗本山○開基は正憲法師○當所は初め秀吉公の創立祥雲院なり紀州根來寺滅亡の後ち其僧徒愁訴に依て秀吉公より當院を玉ひ智積院と號す本尊不動は興教大師の作なり

新熊野社

智積院の南三丁にあり祭る所は紀州熊野權現○當社は後白川法皇の御願なり



三十三間堂 蓮華王院なり三十三間堂とは俗稱なり始め鳥羽上皇此地に三十三間堂を造營し玉ひ得長壽院と號す後ち後白河法皇の御願として平忠盛奉行となり千休御堂を建立す堂の間口六十六間なるも二間を隔て、柱を建し故三十三間堂と稱す斯て一度火災に罹り後龜山院の御宇文永三年再建あり獨り蓮華法院と稱す今堂は其時建立の儘にして南北の桁行六十六間二間毎に柱を立たるより尙ほ三十三間堂と稱す○本尊千手觀音は康慶の作二十八部衆は壇上に安し千手觀音一千体は堂内左右に安置す運慶堪慶の兩作なり

豊國神社

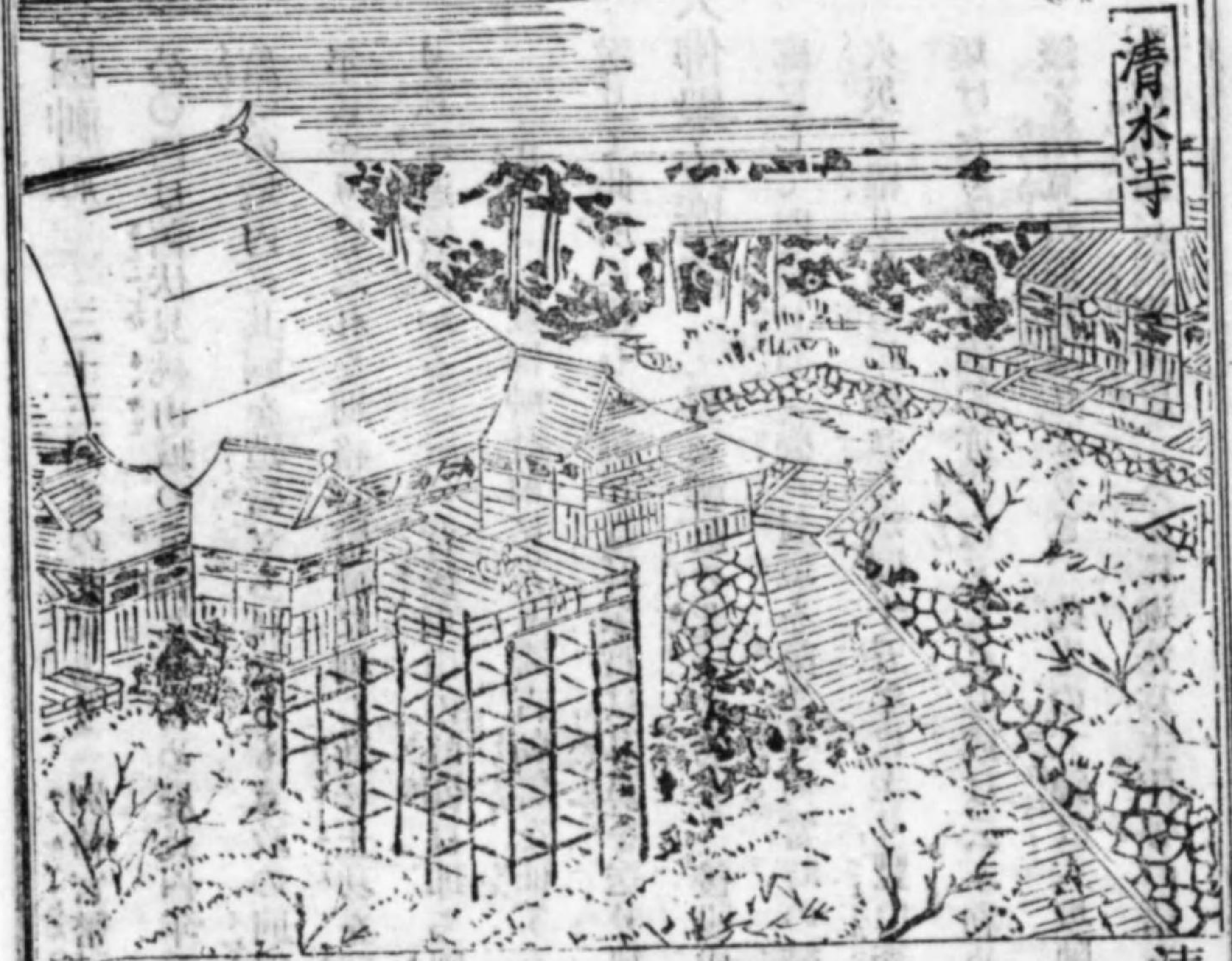
三十三間堂の北にあり 別格官幣社○祭神は贈正一位關白太政大臣豊臣秀吉公○門は舊伏見桃山城の遺物なり初め慶長四年秀吉公に豊國大明神の神號を下賜せられ方廣寺の境内に其祠を造營せられたるも寛政の回録に罹り後ち又再建の事なかりしか明治十年に至り官之れを別格官幣社に列し新に土功を起して今の社祠を營めり境内南の方に菽あり秋季遊客群かる○社の背後東山の峰嶺は即ち阿彌陀峰にして秀吉の英魂の埋る處なり

耳塚

豊國神社前にあり秀吉朝鮮を征する獲首數萬級畢く携へ還る能す其耳を切り送りて此所に埋む一説には耳塚實は耳鼻を送り埋めたりと云々

大佛殿方廣寺

豊國神社の北隣にあり 後陽成院の御宇天正十四年豊臣秀吉の建立する處にして門前巨石を疊み封境を築き今尙當時の結構の雄偉なりしを見るに足れり慶長六年火災に罹り鳥有に歸せしか同十五年に至り豊臣秀頼之を再建し寛政十一年再ひ雷火の爲め焼けたり本尊の大佛亦半像となれり或は云ふ初め金佛なりしか徳川氏寛永の比此大佛にて錢を鑄寛永通寶之れなりと、此寺の大鐘は大坂陣の前彼の大に物議を惹起したるものにて今尙鐘面に國家安康、大小釋迦迭爲主伴等の語を讀む事を得ると云々



清水寺

清水寺

法相、真言兩宗兼學○音羽山と號し洛東第一の靈場にして其名遠近に轟く光仁天皇の御宇寶龜九年大和小島寺の僧延鎮偶當時木津川の水源に溯りて異人行叡居士に遭ひ代て其草庵に住する五年延歷二年坂上田村麻呂の出獵するに會し其知を得て翌年田村麻呂と謀り創めて此地に一院宇を建立し之を北觀音寺と號せり後ち桓武天皇の御宇殿舎を田村麻呂に賜ひて堂宇を修造し後ち又平城天皇に及び更に紫雲殿を田村麻呂に下賜之を造營し翌年に及び竣工り當時の緣起此の如く遼遠にして境域の結構、殿堂の

建築悉く雄偉なり本堂は其南邊に立ち懸崖に架して前庭舞臺を設け臺上遠く望めけ京の外は勿論河内の金剛山を天空の間に認め淡路の諸山を糺糊の中に見るを得へし境内の名勝甚だ多く一片紙の能く盡す處にあらず今重要なるものを擧れば○本尊は十一面四十臂千手千眼觀音は田村磨延鎮に居宅寄附を約する夜化人來りて之を作る脇土地藏毘沙門は延鎮の作○奥院は同師草庵の蹟なり○阿彌陀堂は瀧山寺と號し泫然上人念佛三昧開闢の處なり○朝倉堂は越前國司朝倉彈正の建立鼻水は中門の西にあり○音羽瀧は奥の院の下にあり○爪形觀音は春日社前にあり傳へ云ふ景清爪を以て彫ると其他田村磨、禰橋、釋迦堂、地主權現、成就院にして世人當寺禮願を込め結願の日願望成就を卜ふる爲め傘を持ちて舞臺より飛落るを世に清水の後ろ飛と云ふ

清閑寺

清水の舞臺下を東に進み深く山間に入れば清閑寺なり 佐伯公行の建立○本尊千手觀音は菅公の作○寺内に六條 高倉二帝の陵あり又高倉院の寵姫小督の隱棲したるは當寺にして其墓亦帝陵の傍にあり、世に此寺の近邊を歌の中山と云ふは往昔當時の僧眞燕一夕門前にて美女を見煩惱の念を發せし時其女和歌を詠し戒め去りし事跡あるに依る

鳥邊山

清水寺を西南に下りて西大谷に至る路傍を云ふ墳墓累々、淺見綱齋先生の墓あり○阿俊傳兵衛の墓は路傍右側の一寺内にあり試みに至れ無常の風は常に吹けり

西大谷

五條坂の上にある 本派本願寺廟所○此地門前の風景全く人工に成ると雖も亦洛東の一佳境たり池上花剛石を疊み眼鏡橋を架し橋下多く蓮を植ゆ花候遊客多し

八坂の塔

清水坂下にある、五層の寶塔屹然空に聳ゆ以て洛東一壯觀を爲す、聖徳太子の草創に係り樓門伽藍壯嚴を極めたりしが年を経て荒廢れ今僅に太子堂五重塔を残すのみ

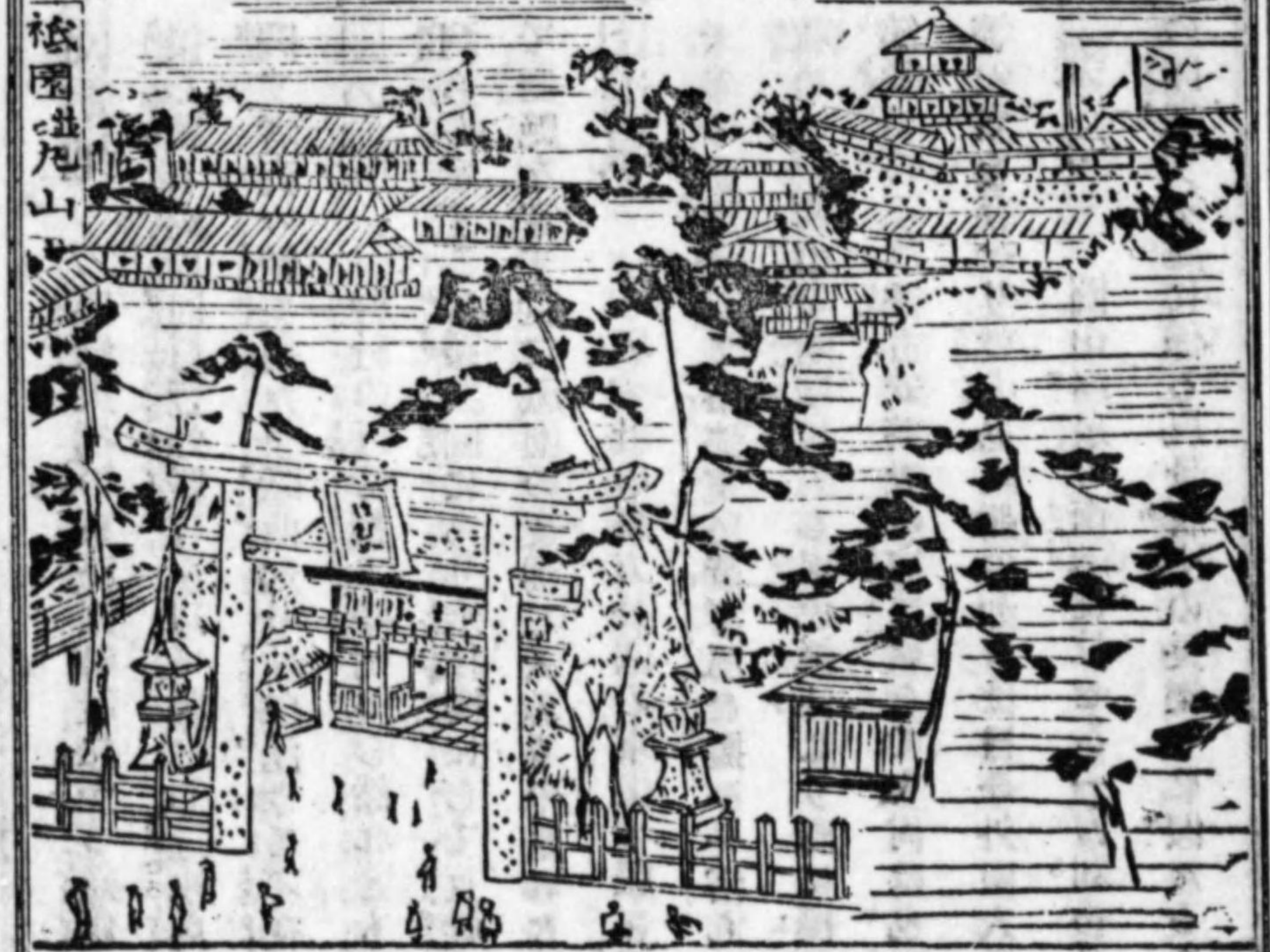
靈山

八坂の塔の東にあり維新以來戰死者の幽魂を祭り招魂碑を上方に築つけり故内閣顧問木戸孝允公の墓も亦山の半腹にあり靈山と號するは靈鷲山の略言にして靈鷲山とは正法寺の山號にして 時宗○開基は傳教大師、中興は國阿上人○堂の額は弘法大師

高臺寺

靈山の北にあり 禪宗○開基は弓箴和尚中興は三江和尚○當寺は秀吉公北政所の菩提所にして政所の殿舎は往年罹災せり其方丈及び有名なる庭園は佛殿の北塙墻の中にあり寺僧の案内を請ふにあらざれば見るを得ず又著名なる時雨の亭及び傘の亭は當寺の後山獨秀峰にあり共ニ千利休の嗜好に出て甚だ雅致に富む當寺萩花の名所なり

GION AND MAND MARUYAMA



祇園東山

祇園

八坂神社○官幣中社よて

祇園新地の東端東山の麓にあり正門は南面にして○祭神は素戔鳴命、八王子、稻田姫、此社神初め播州明石の浦に垂跡せるを吉備大臣同國廣峯に勸請し後ち又王城守護として此地に遷座す○近年樓門社務所等新築あり從來の美觀又一層の光彩を添ふ○龍穴は社壇の下にあり傳へ稱す深さ五十丈尙ほ其底に達せずと果して信耶○毎年七月十七廿四の兩日を以て祭事を執行す市内各衢より山鉦を出し祇園新地より遊女の練物を出し豪華美にして我邦無比の祭事なり所謂祇園會之れなり

祇園新地

四條大橋の東祇園神社に至る幾條の市坊を包括するものなり酒樓妓院戸々相接し蓄る處の回眉豐類數百を以て數べし近來島原蕪へて此地益繁盛紳士豪富來りて驕奢を闢す者夜々蹟を絶たず歌曲起り絃聲湧きて不夜城の看あり

祇園の櫻

神社の近傍都て櫻樹多し然れども世人の稱する祇園の櫻は社の東方智恩院に到らんとする道路公園にあり垂枝櫻にして巨幹繁茂一株林をなす花時に到れば電氣燈を以て幽艶を賞す世に祇園の夜櫻と云ふものは是れなり

圓山温泉

八坂神社の東方公園の東山半服に三層の高樓と見る即ち圓山鑛泉にして明治六年の創設にして浴場室房皆洋風に擬ひ一浴し去りて欄頭に凭れば京中満市を一瞬の裏に收め遠く西山の晴翠に對し風色絶佳なり殊に極冬の候觀雪第一の所とす下方及び北方の旅館數軒あるは往古安養寺の宿坊にして今尚ほ也阿彌、左阿彌、蓮阿彌、正阿彌、眼阿彌端の寮等の名を存せり就中也阿彌の如きは目今外國人のホテルにて常に外國人數多宿泊せり

長樂寺

圓山鑛泉の南隣に位せる一古刹あり初め天臺の別院にして延歷年間傳教大師の開基する處に係る風景唐土の長樂寺に似たるを以て之に名付けたるものなり其規模甚だ

大ならざるも幽棲にして頗る雅韻多し

賴山陽墓

長樂寺の上方山服に在り賴氏一家の墓多く茲に列る先生常に東山の秀色を愛す此翠巒の間に眠る復遺憾なかるべし

將軍塚

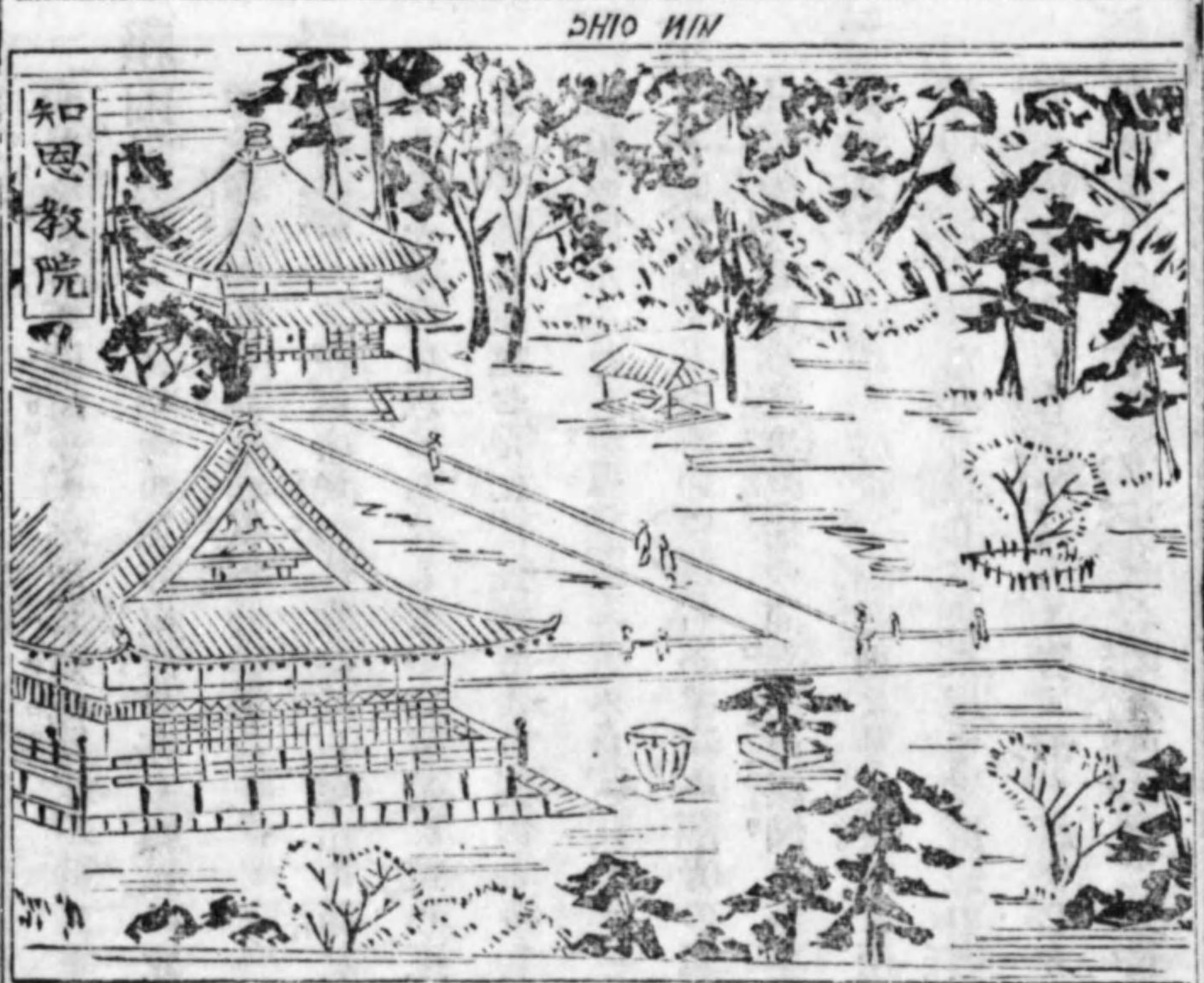
桓武帝興都の初め地を東山の巔にトして長八尺の土偶に甲冑を鑿け弓箭を帶し之を西面に埋められしものなり是れ蓋し王城の守護神たらしめんとの窺慮に出しものなりと之を登覽せんには長樂寺より圓山より智恩院より孰れも七八町を攀づれば山巔に達す危ち凹形をなし老松簇生せるを見るべし

東大谷

長樂寺の南隣にあり東本願寺の祖廟とす親鸞上人の廟舎は本堂の上方に位し壯靈華美を極め深菅老樹の間五彩の燦爛たるを認むる等亦一種の妙趣を存せり

二軒茶屋

八坂神社の鳥居前より北樓門に至る迄の間往古二軒茶屋の地にして今は中村樓等の旅宿となれり蓋し二軒茶屋とは慶長の頃此兩側に各一軒の茶屋あり店頭鑛子を掛け常に湯を泌らし香煎をたて、客に供し居りしものなりと其趣今尚ほ中村樓の店頭に存して古風を見る樓主の意愛すへし此邊芭蕉堂、大雅堂、西行庵等の古蹟あり



智恩院

八坂神社の東北にあり浄土宗鎮西派總本山○華頂山大谷寺と稱し洛東第一の巨前とす○當院は圓光大師一宗開發の靈所なり初めは東の山腹今の勢至堂の地(大師入寂の地)なりしが滿譽和尚の代徳川將軍嶮岨を平げ伽羅を建立す境域山腹に據り廣漠にして秀麗森々なる樹木巍々たる樓台と相映射し風光筆舌の及ぶ處にあらそ○本堂は東照公の台命に依り造營せし處にして表面の額は後奈良天皇の震筆にして内に圓光大師像阿彌陀佛(大師臨修佛にして寛印供奉の作)を安す○樓門の額は靈元法皇震筆にして閣上

に月蓋長者善財童子十六羅漢像を安す○勢至堂の額は後柏原帝震筆本尊勢至は安阿彌の作○大師廟は山上にあり○和尚石は方丈の庭に、瓜生石は黒門前に、小鍛冶井(小鍛冶宗近名劍を鍛ひし時に用たり云云)は樓門の傍にあり○鐘堂は本堂の東南山上にあり鐘は巨大にして高さ一丈八尺直徑九尺厚九寸五分、寛永年間の鑄造とす○不思議の傘は本堂南隅の檐に狭みあり此物世に鳴るは亦不思議とす、其他鶯廊下及び方丈襖の狩野家諸大家の筆に成れる秋雀、八方睨の猫等は世に聞たる者なり當守御忌賀は例年四月十九日か一周間執行す

青蓮院門跡

三條粟田にあり天台宗○開基は傳教大師中興は行玄大僧正、其第二は覺快法親王、第三は慈圓大僧正○殿舎壯麗なりしが客年祝願の災に遇ひぬ○植髮堂は當院の東にあり見真大師幼童九歳植髮の尊像を安置し信徒日に參集す

金藏寺御猿堂

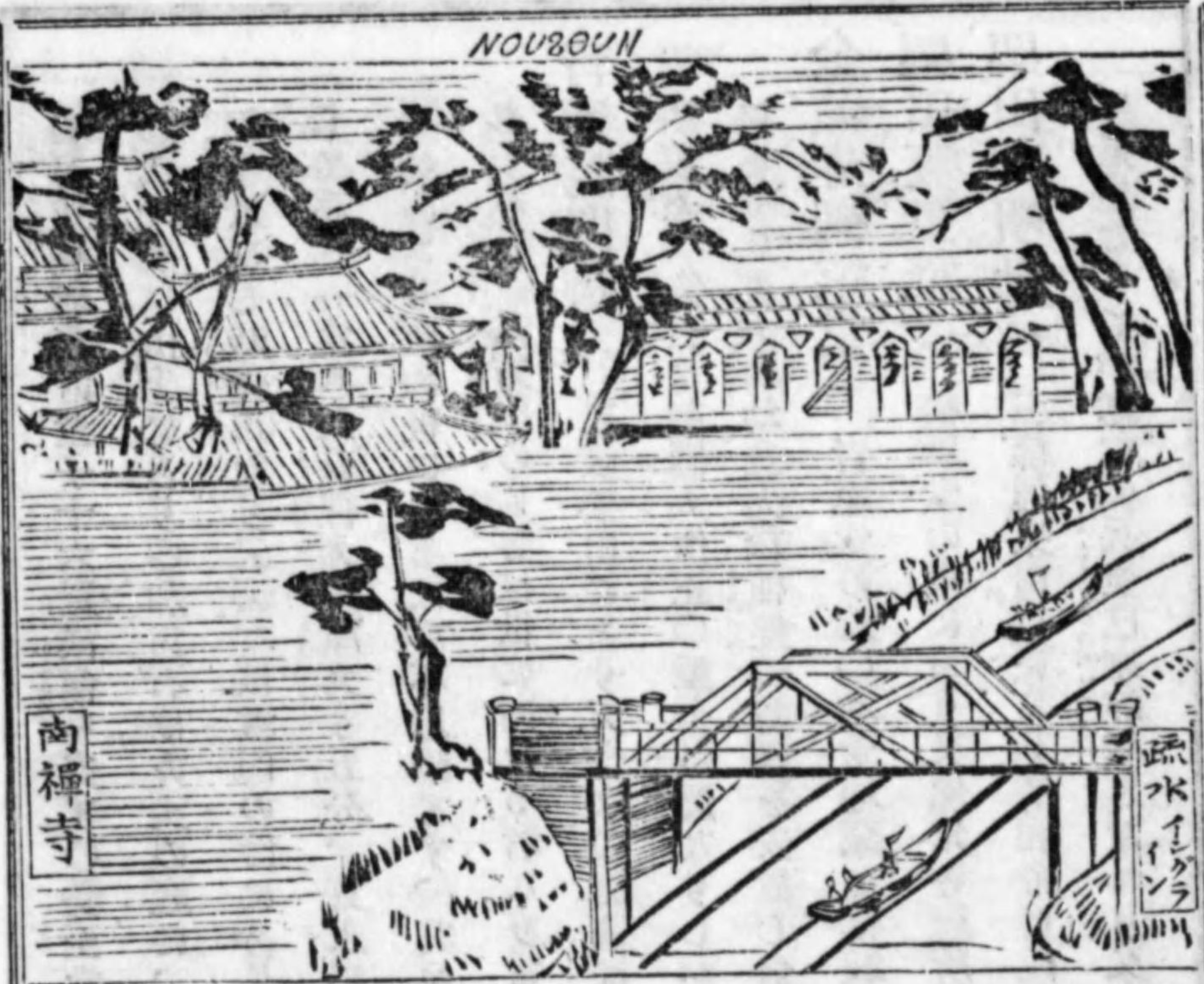
青蓮堂の隣○本堂地藏は傳教大師唐土より携へ歸れり○三猿像は傳教作

粟田天王社

御猿堂の東にあり又佛光寺廟所は天王社の東にあり

粟田神明社

三條通粟田口にあり清和帝貞觀年中菅原船津に勅して勸請し玉へり初め殿宇壯嚴なりしが應仁の兵燹已來經微となれり又此邊、吉水園あり清淨にして眺望に良ろし



疏水運河

時の京都府知事北垣國道氏の計畫起工する處なり明治十八年始めて工を起し二十五年に及び竣成たり京都大津間の運漕及ひ水力利用、田圃灌漑等の便を計り開鑿せる溝渠にして水源を近江關琵琶湖三保ヶ崎に發し廿二丁余の隧道其他二小隧道を経て三條蹴上に至り岐れて二派となり一は南禪寺内水路閣、若王子門前を過ぎ吉田の北邊を西行して又北馳れ白川村を経て西曲し高野川、鴨川を通りて堀川の上流、小川頭に入る一は水力電氣器鐵場の鐵鑛を過てインクラインの下に湊りて西流して加茂川に入り更に

同川の運河を経て伏見に達す詢に偉大の工事と云ふ可し

南禪寺

疏水インクラインの東方山麓にあり禪師五山の一〇當所は舊龜山法皇の離宮なりしが弘安年中開基大明國宗に賜はり始めて南禪寺と稱せしめ給ふ以來年を経る六百余年其間應仁の兵火に炎上し今纔に幾分を存するに過ぎず〇山門は五鳳樓と號し寛永年中藤堂高虎の再建にして閣上には高虎大阪出陣の時討死せし將校の靈を安す〇山門の内に大なる石燈籠あり寛永五年九月十五日佐久間大膳克平勝之寄進す初め一對なりしが傳へ云ふ一基は一夜盜に途ひ其物は奈良の春日社にありと知らず信なりや〇當寺には有名なる鴨瀧の画(古法眼元信筆)水香の虎圖(探幽の筆)あり〇金地院は〇當寺内にあり〇開基は大業和尙〇佛殿書院は舊伏見桃山城の殿舎を移したるものなり〇院内に東照宮あり鳥居の額は尊順法親王の筆〇ハッ窓と名くる茶室は小堀宗甫の好みなり〇駒ヶ灘は后山にあり駒大僧正の舊蹟なり 避暑に宜し今や舊看を改め疏水岐路の水路閣に築造したるより見る人群集す

永觀堂 禪林寺と號す南禪寺の北にあり淨土宗〇西山派本山〇當寺は清和天皇勅願所として貞觀年中眞紹僧都の創建なり后ち西山上人の弟子西谷淨音和尙に至りて眞言宗を

改めて浄土宗とす本尊阿彌陀如來は世に願本尊と云ふ蓋し中興永觀律師永保二年二月十五日晨朝行道念佛せるに本尊檀を下り共に修行す律師信感の余り乾の方に向て暫く躊躇す其時本尊左に顧み永觀遲しと言ひ玉ひし緣由あるを以てなり○境内に池あり鶯池と號す池畔達らずに深樹を以てし孰中楓樹最も多く滿錦林を織り池水猩血色に變する頃節を此地に曳く者多く秋景絶佳なり又夏時蓮花池に咲く頗る閑靜なり

若王子社

永觀音の北にあり○舊天臺宗にして修驗道を兼ねたりしか維新后寺を廢し若王子社と號す○熊野權現は后白川法皇の勅願なり○觀音堂は那智山の本地十一面觀世音を安置す洛陽觀音巡の隨一なり○山中に瀧布あり那智の瀧を摸したりと云ふ○境内山服の地は昔時庭園の跡にして其初めは廟廊壯嚴を極めたりしも應仁の兵亂にて荒蕪し今數小字を存するのみ○境内の風景、清幽閑雅、四時騷客踵を繼ぐ就中避暑觀楓の勝地たり

鹿ヶ谷

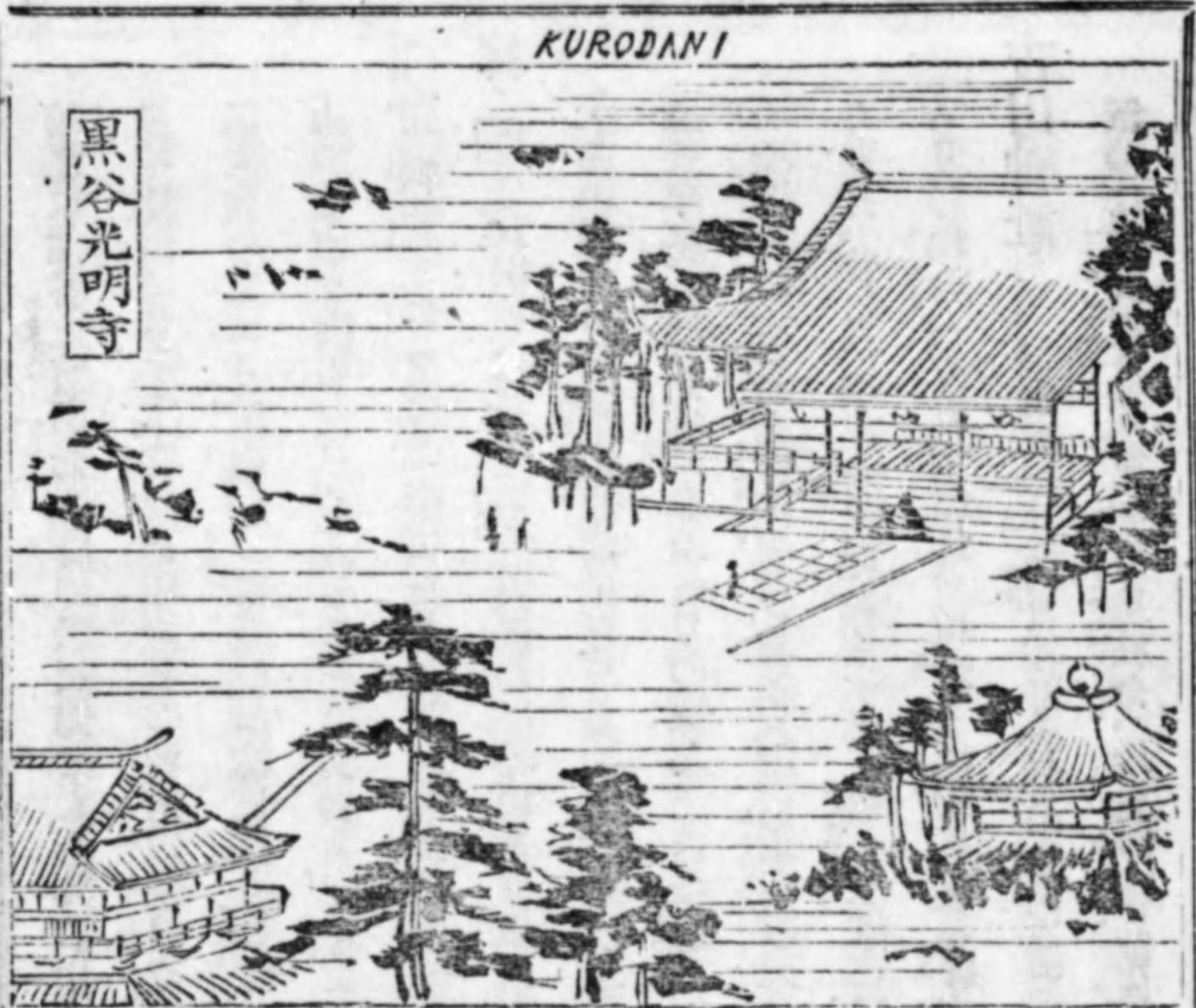
其麓に安樂寺あり 后鳥羽院の寵姫、松虫、鈴虫の二媛遊れて尼となりし處

談合谷

俊寛僧都山莊の舊蹟にして成經康賴等と平氏を亡と謀りし處今尙其蹟を見る

如意ヶ嶽

毎年八月十六日大文字を點火す文字は弘法の作后ち破潰し横川和尚修葺す



黒谷光明寺

黒谷金戒光明寺

若王子の西岡崎町

にあり浄土宗○鎮西派四本寺の一にして叡山西塔の黒谷を摸し初め新黒谷と稱せしか中世單に黒谷と號す寺内三万三千余坪あり堂塔壯嚴、古松森々たり○圓光大師の舊跡にて本尊圓光大師像自作又當寺に見真大師自作の像あり○觀音堂本尊は行基の作○阿彌陀堂本尊は惠心の作○勢至堂は圓光大師の廟○熊谷堂は熊谷蓮生房自作の像及平敦盛の畫像を安置す○三重塔に安する文珠菩薩は日本三文珠の隨一(他の二文珠は丹後の切戸大和の安倍にあり)紫雲石は塔の北にあり○鐘掛松

鏡池は熊谷直實圓光大師の教に歸せし時其着用したる鏡を此池水にて洗ひ此松に掛けたり
との縁由ありて本堂の前にあり○境内憤墓累々中に熊谷敦盛の墓及び山崎闇齋、三宅尙齋
二先生の墓あり境内総て自然の山林に據り樹深く苔滑にして殆ど幽谷に入るか如し昔時叡
山の深壑に擬したりと云へるもの其必ず謬言に非らざるをしる

熊野神社

黒谷の西にあり 後白河上皇の勅願にて熊野新宮を勸請す應仁の亂に輕微る

眞如堂

眞正極樂寺○黒谷の地にあり○天臺宗○開基は戒算上人○本尊彌陀佛は慈覺

大師の作在世中叡山行堂にありしか後ち戒算上人に夢告あり行堂を出て處々遍歴の後ち元
祿五年冬此地に遷座し玉へり○戒算上人の像は尊證法親王の筆○元三大師堂の畫像は自作
石薬師堂の本尊は舊禁裏にありしか 正親町天皇御宇當所に遷し玉ふ○觀音堂の本尊は昔
し縣井(昔し一條東洞院にあり)より現せり故に縣觀音と云ふ○元眞如堂は本堂の北下檀に
あり○地内一万五千餘坪、地最も楓樹に富み紅雲宏堂の間に飄々たる比雅客節を曳者多し

吉田神社

吉田町神樂岡に在り官幣中社○清和天皇御宇貞觀二年中納言山陰卿の勅請○
祭神は健御賀豆智命、天兒屋根命、比賣神、伊波比主已命、の四座○樓門中門の額は清水谷實

秋卿筆○本殿大額は嵯峨帝震筆、小額、及八神殿の額は後土御門帝震筆○内外太神宮は八神

大興寺

吉田社の東に在り 禪寺○本尊樂師十二神は皆連慶の作後鳥羽天皇勅願所な

百萬遍

智恩寺○第三學校の北田中村にあり 淨土宗○鎮西派四本寺の一なり草創は

慈覺大師○法然上人加茂の神勅に依て住持弘法せられし已來淨土宗となる○當寺を百萬遍
と稱するは後醍醐帝の勅號にして縁起あり○本堂の額は後奈良帝震筆○本尊釋迦佛は其首

自然の出現にして餘は慈覺大師の作○地藏菩薩は弘法大師の作○不動王は智證大師の作○
勢至堂本尊は連慶の作○當寺の什寶は弘法大師筆利劔の名號、圓光大師筆一枚起請文、趙州

宋王より平清盛に贈りたる松蔭硯(紫石)等あり

干菜寺

在昔豐臣秀吉の時此等多く干菜を献じ由りて此名を得往時六齋念佛と稱する

は毎年六月二十五日近郷の農民此寺の庭に於て行ないしものなりと云ふ

北白川

所謂志賀山越は此村の上方白川の瀧あり百人一首の春道列樹の詠は此山中也



銀閣寺

慈照寺、禪宗○鹿ヶ谷の北浄土寺村に在り○開基は夢窓國師○此寺は舊と足利義政の閑居の別業にして東山殿と稱す○東求堂は義政の持佛堂○茶室は義政の嗜好に成れるものにて茶亭四疊半の殿觸なり○二重の高閣あり鹿ヶ谷寺の金閣に對して銀閣と號し庭上銀砂を盛る上殿を心空殿下殿を潮音閣と云ふ又庭園は東山殿茶道相阿彌に命じて造らしめしものにして飛泉あり、向月臺あり、銀沙灘あり及び種々の奇石珍木を集め風光美妙閑雅四時の壯觀ならずと云ふことなし○月待山は本寺の東山なり尙ほ悉敷

事は去りて之れを寺僧に問へ二六の雜僧異調を以て之を懸示すべし

詩仙堂

金福寺と同じく一條寺村に在り石川丈山の閑居の遺跡にして幽篁門を造りて唯清風明月の來るを許し自ら人寰を脱するの觀あり丈山曾て本朝三十六歌仙に擬し堂の四壁には漢、晋、唐、宋の詩家三十六人の像を狩野尙信に画かしめ丈山彼等自作の詩を題せり是れ堂の其名ある所以なり又堂内丈山の遺物種々あり蟬の小川の詠進ありし高風見る可し

修學院離宮

山端の東、元修學院村に在り 後水尾天皇離宮の舊趾にして維新後暫く離宮の名を除かれたるも再び離宮に充てられ衆庶の拜觀を禁ぜられたり林苑分ちて上下の二とし櫻楓年を経て怪幹巨枝の鬱茂するに任せ池水舟を白く幽邃閑靜勝て題すべからず

比叡山

延曆寺○山巍然して京部の東北に聳へ城江二洲に跨る此山に攀づるに二路あり一は修學院の東雲每坂よりし一は八瀬よりす八瀬よりするものは先横川に入り雲母坂よりするものは先無動寺に到り東塔に入る叡山、東塔、西塔、横川是なり名勝牧擧に遑なし

下加茂社

糺の北深樹中にあり官幣大社○白鳳年間の造營にて社殿の宏壯比近に類を見せ本社例祭蘇祭と稱し服装行式の古雅なる祇園會の華美と相對せし大祭なり



北野天満宮

御前通一條北野右近馬

場に在り官幣中社○祭社は菅原道實公別
つに嗣子管中將を東の間に其の室吉祥院
を西の間に合祀す○初じめ天曆九年三月
十二日菅神の御託宣にて朝日寺の僧最珍
右京の文字等力を協せ靈祠を建つ次て天
徳四年右大臣師輔猶も神威を敬ひ大厦を
改築す已來殿齋壯殿院内のよき賽人の多
き京都幾百神社中此社の右に出るなし○
當社に加藤清正の寄附に係る大鏡あり○
北野社は本殿の北にあり地主神なり○影
向の松は菅神影向の所なり○官祭は八月
四日私祭は十月四日○境内総て老松多く

平野神社

又梅樹に富み初春の頃紅白潦乱松翠の間に點綴社頭の好景佳なり
平野神社の西北二丁許にあり 官幣大社○日本武命、仲哀天皇、仁徳天皇、天

大徳寺

平野社の東北にあり 禪宗五山の一○開基は大燈國師○伽羅建立の資料は赤
松圓心全則村の寄附○山門は連歌宗匠宗長の造營にして初め閑なし千利休其樓閣を修飾し

建勳神社

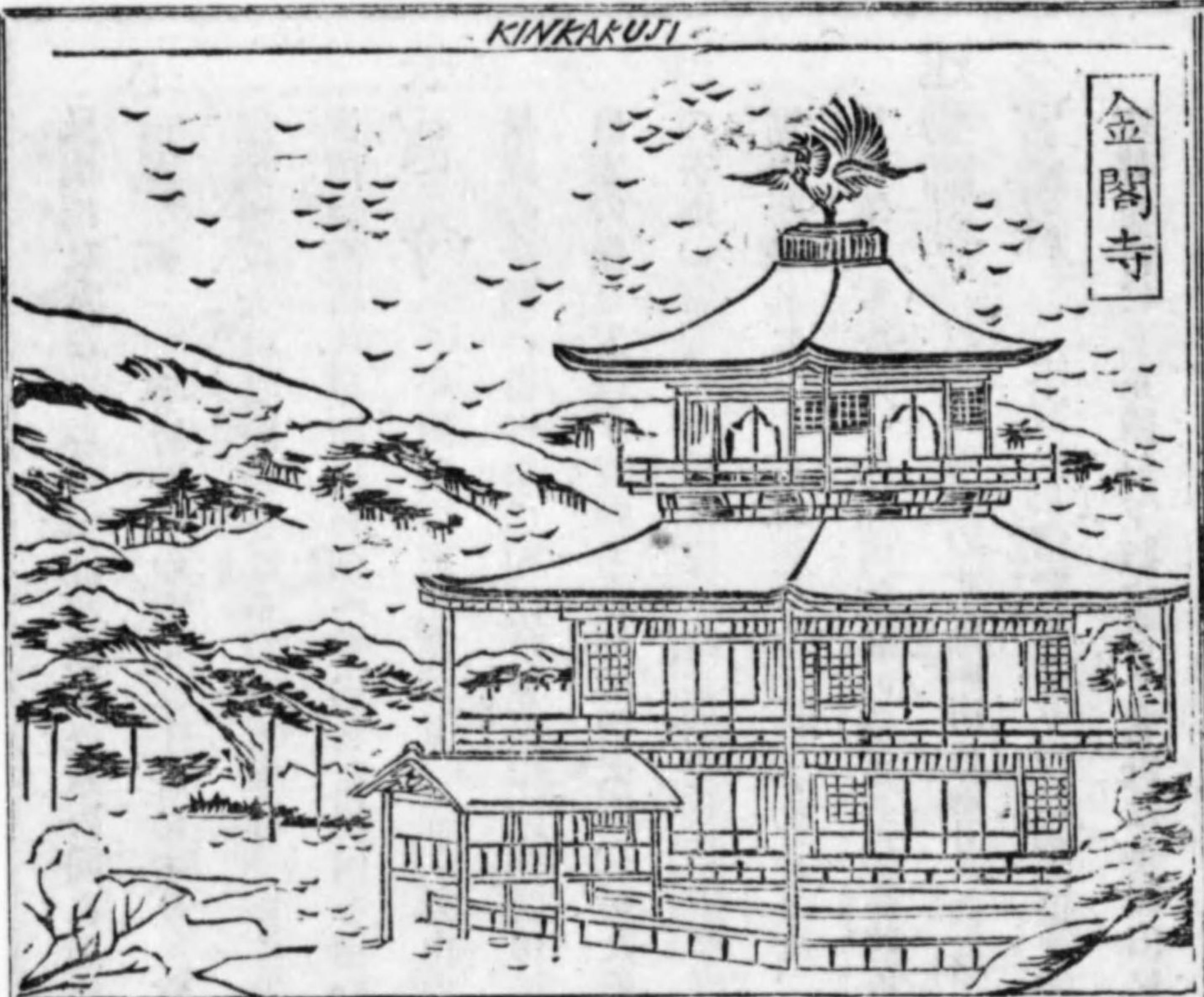
北野神社の北舟岡山にあり 別格官幣社○織田信長、信忠二公を合祀す

今宮神社

大宮の北紫野にあり○祭神は素戔鳴命及稻田姫を合祀す社地若狭川を前にし
森林を背にし正殿以下數字あり當社は舟岡山に有しを一條院の御宇長保二年此處に遷座す

自家の像を安置す豊圖らん罪を豊太閤に待たるは世人の知る處なり○方丈の門は明智光秀
の寄進○當寺の十境は遠摩峰、瑞雲軒、看雲亭、金剛軒、古岩松、起龍軒、官池、梅橋、雲門庵、
明月橋是れなり○眞珠庵は方丈の北にあり庵、額は一休禪師の筆、庵内張付諸画は曾我蛇
足軒筆、當庵は一休和尚住居の所なり○孤峰庵は小堀宗甫宿坊なり○集光院は全所にあり

金閣寺



金閣寺

鹿苑寺○平野神社の西北

七八丁にあり 禪宗○開基は湫石○初め
足利義満の山莊なりしに後改めて寺とな
す○三重の閣あり下段を法水院或は如來
殿と號し阿彌陀佛(安阿彌作)觀世音(運
慶作)勢至(堪慶作)達广大師、夢窓國師、
鹿苑院殿等の像を安置す、中段は潮隈洞
と號し觀音(惠心作)四天王を安す、上殿
は究竟頂と號し堅額は後小松帝震筆、室
内三間四面枚敷(一枚黒塗枝)天井平板に
して四壁句櫛總て金箔を麗す故に俗に金
閣寺と通稱す此樓閣を廻すに池水を湛へ
九山、八海石、出龜、入龜、の島は池中にあ

り又池の南に拱北樓、巽に小御堂、東に地藏堂、龍門の瀧等あり又茶室は當寺にあるを以て
茶亭流行の濫觴とす唱歌に所謂萩の違棚、南天の床柱は此室にあり○背面に衣笠山あり往
昔足利氏盛世此山上を蔽ふに白綾を以てし時ならぬ觀雪の宴を催たるに依り此名ありと
等持院 衣笠山の南麓に在り 禪宗○開基は夢窓國師にて足利尊氏の建立足利氏累代
の木像皆此寺の昭堂にり○中門の額は足利義滿筆○寺中廣大開雅にして同氏の墓は昭堂の
西傍にのり上に寶篋印塔を建つ義詮の墓は寺背の山下にあり高山彦九郎及び維新前後浪士
事の故等歴史にある處にして其後兩氏の墓は世人の縦覽を遮絶すると云ふ

妙心寺

花園村にあり臨瀬宗妙心寺派本山○開基は開山國師○始め花園大皇の離宮な

り天皇深く禪に歸し玉ひ改めて寺となし玉ふ○境内に老松四幹ありて四幹の松又は雪江の
松と號する縁起あり○玉鳳院は花園法皇御住居の所なり正面唐門の額は法皇の震筆○祥雲
院影堂には豐臣秀吉の嫡男乘松の影像を安す○當寺の十境は万歳山(双の岡)鷄足嶺(北山)
南花塔(當寺の塔を云ふ)宇多河、高安灘(同河にあり)度香橋(南門前)齋宮杜、舊籍田(玉鳳
の地)百花洞(玉鳳院内)麒麟閣(玉鳳院内)是なり○双の岡西手に有吉田兼好草庵の跡あり

御室仁和寺



御室 仁和寺、御室にあり真言

宗本山當寺は光孝天皇の御願にして仁和四年八月創立あり仁和寺と號す後ち宇多天皇御落飾あり此地に御室を構へ王ふ故に御室と號す又大内山とも號す御門跡の號茲に始まる○宇多天皇の造營七堂伽藍は應仁の兵火に罹り今の當殿は寛永年中の再建○金堂は彌陀觀音勢至を安し祖師には弘法大師自作の像、脇檀に寛平法皇震影性信法親王御影を安す○五重塔は四面に五佛を安置す○後山に四國八十八ヶ所の靈場を移したり○當寺は世に法親王の寺務を執る所たり寺境十萬六千餘坪○

四〇

境内櫻樹多く殊に當寺の櫻は幹身矮屈を以て名あり

龍安寺

御室の東四丁にあり 禪宗○此地初め衣笠左大臣實能の別業にして傍に一字

の佛殿を營み徳太寺と號せり是より代々徳太寺を以て姓とす後ち細川勝元請ふて自家の別業とす方丈は勝元の居館にして庭園皆其嗜好に據りて成る○實の開基は日峰禪師なれと勝元歸依の故を以て義天和尙を開基とす○堂内天井の畫(龍迦陵頻)は兆殿司筆○勝元の塔は方丈の後山にあり○前庭假山水は勝元の設計にして姿勢奇なり池面に鷺鷥群り風景尤妙

高尾

棋の尾の西南四丁許にあり世に高尾、棋尾、桐尾、を併せて三尾と云ふ 真言

宗○光仁帝御宇和氣清曆上奏して建立あり神願寺と號す淳和帝天長二年僧空海に賜はり號を真言神護國詐寺と改む○樓門の額は覺信法親王の筆金堂の藥師佛並に講堂の五大尊は弘法大師の筆○納涼房は弘法大師舊住所にして全大師像並文學上人の住せし處にて全上人像を安す○當寺の鐘は三絶と名く橘廣相序詞を作り菅原是善其銘を撰し藤原敏行之れを書せり故に三絶と名く本朝の名器たり○什寶中弘法筆山水屏風一片あり○額書石樓門外にあり弘法大師住山の時、帝、空海に金剛定寺の額を書することの勅使を遣はさる時に雨降り清

四一

瀧川水増り高雄山に至るを得ず是に於て空海此石を硯に代へ河を隔て、書し了れり云々○
奥院地藏堂は當山好景第一の地にして瞰下すれば清瀧の流遙に眼下に横り老楓兩岸を擁し
て依稀其白湍隠見し素深を以て蜀錦を縫ふに似たり近比道路繕修楓時杖を曳くもの多し

楨尾 西明寺、東北五丁にあり 眞言宗○開基は智泉法師佛殿本尊は明惠上人作、西

脇千手観音は聖徳太子作○三尾の中最も楓樹に乏しと雖も樹木蒼鬱深趣遠致亦他の及ばさ
る處あり要するに、高尾は宏壯、楯尾は明豁而して、楨尾は則幽雅排置の天工を疑ふ

楯尾 高山寺、楯尾の北数丁にあり 華嚴宗○開基は明惠上人、禪堂院に上人の用

ひし茶釜あり○明惠上人は日本製茶の鼻祖にして宇治茶は此地より移植したるものと云ふ
○當所の七境は練若臺、石水院、遺跡窟、羅坡房、華宮殿、三伽禪、定心石なり○山下一橋を架
するを白雲橋と云ふ山下を俯瞰すれば一簇の楓樹繁茂し紅雲深壑に湧き清瀧の白を認む

愛宕山 愛宕神社嵯峨村の上方にあり、雄峻、高聳、山巔に到る一の鳥居より五十余町、

山上には伊弉丹尊、軻遇突、智神を祭り雷神破无神を併祀る又火災を除くの神を崇む試時、
猿渡橋、日晩瀧、密ヶ原、南星峰、等の名蹟あり麓の清瀧は茶店あり避暑の富客到る者多し

ARASHIYAMA

嵐渡月橋



嵐山

大堰川は山麓を流る櫻樹多

く山景頗る佳往昔龜山帝吉野の櫻樹を移
し玉ひ山城第一の勝地なり獨り春櫻絶美
なるのみならず月に雪に夏は新緑秋は紅
葉時鳥聴くべく盤撲すへく四時の景色皆
佳ならざるはなし長虹一帶渡月橋、素練
穿翠戸難瀬瀧、横笛の身を投せんとせし
千鳥ヶ淵、大堰川浚鑿せし角倉了以の碑
(碑名は林道春作)は大悲閣にあり座禪石
は山上にあり夢窓國師座禪の處、機谷宗
像兩社は山麓にあり古城趾は山上十四丁
計にあり、藏王谷は古城の西にあり、此
上流は所謂保津川にして之が勝を尋ねん

と欲すれば龜國に陸行し舟を雇ふを可とす洋人必ず到り其奇麗に驚く

太秦廣隆寺

三條大橋を距る一里半嵐山に到る二條通にあり 三論兼學○聖德太子其侍

臣秦川勝に命じて建立せしめ玉ふ縁起あり○本尊藥師佛は向日明神の作○太子堂の聖德太子像は御自作にしの歴代の天子御裝束を進めらる又什寶として守屋退治の軍配圖あり○太子堂前の石燈籠は古風にして世に太秦形と稱す○例年九月十二日夜魔多羅神牛祭を執行祭文弘法の作にして祭事式異様なり○太子堂の西南に大酒明神社あり祭る處は天照太神一説に秦始皇なりとも又秦川勝の靈なりとも云ふ○太神と號るは古昔秦人歸化者住たる故なり

二尊院

小倉山に在り 天台、眞言、律淨土、四宗兼學○小倉山は古來檜樹多を以て現る境地東に而し佛殿、影堂、龍女池、辨財天祠、嵯峨、土御門、後奈良三帝の塔及び法然上人の塔あり世に定家郷の山莊を小倉山莊と稱するを以て此山上に在しが如く信すれども其山莊は中院の北一丁餘壓離庵なりと○當院は二條鷹司兩家の菩提所大儒伊藤仁齋の墓あり

清涼寺

嵯峨釋迦堂と云ふ、二尊院の東北にあり 淨土宗○本尊釋迦如來は世に赤梅檀の釋迦と稱へ字内無二の靈像にして昆首羯磨天か作る所、永延年間東大寺の僧入唐して

得たるものなりと或は云ふ此地嵯峨天皇の離宮の城内にして大覺寺と通せしと○當寺表門前西數町の藪際に小楠公の首塚あり奇とするは足利三代將軍の墓と一石欄の中に併葬しあり傳へ云ふ足利氏死に臨み遺言して小楠公の忠義を感じ併葬せしめたりと書生常に一方を嘲る

大覺寺

舊と嵯峨天皇の離宮にして世々法親王の在住せられし處たり 眞言宗にして古は境地十萬八千余ありたるも今稍縮小て五分の一となる然れども猶ほ洛西巨剌の一に算らる老松堂閣を蔽ふて幽雅勝けて名狀すべからず明治廿五年土地の有志者此境内に舊と近衛公の老女贈從四位村岡の碑を建つ因に云ふ村岡は此近郷出生の者なりと

祇王寺

淨土宗、小倉山北にあり、平相國清盛の嬖妾祇王、祇女、止知、佛刀自等の遁世せし處なり(事は平家物語に見ゆ)現に四女の像を佛殿に安置す

三寶寺

一名往生院、祇王寺の南にあり淨土宗開基は良鎮上人○門内南側歌石なるものあり小松内府博士瀧口時頼彼の建禮門院の侍婦横笛と契りしに父の析鑑に遇ひ出家して當寺に隱る横笛尋來るも面會せざりしかば此石に踞し和歌一首を遺し大堰川千鳥ヶ淵に沈

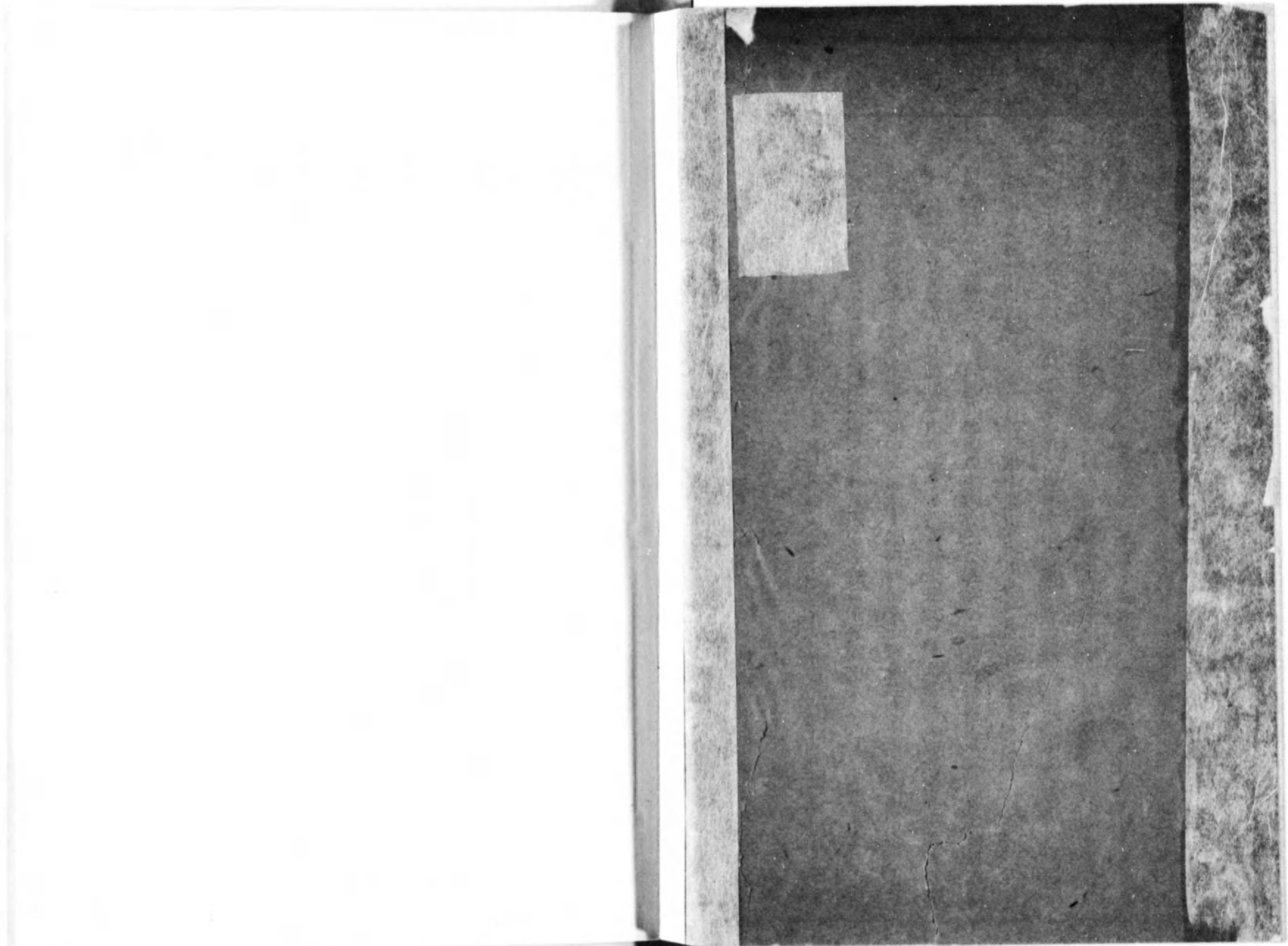
むと云ふ

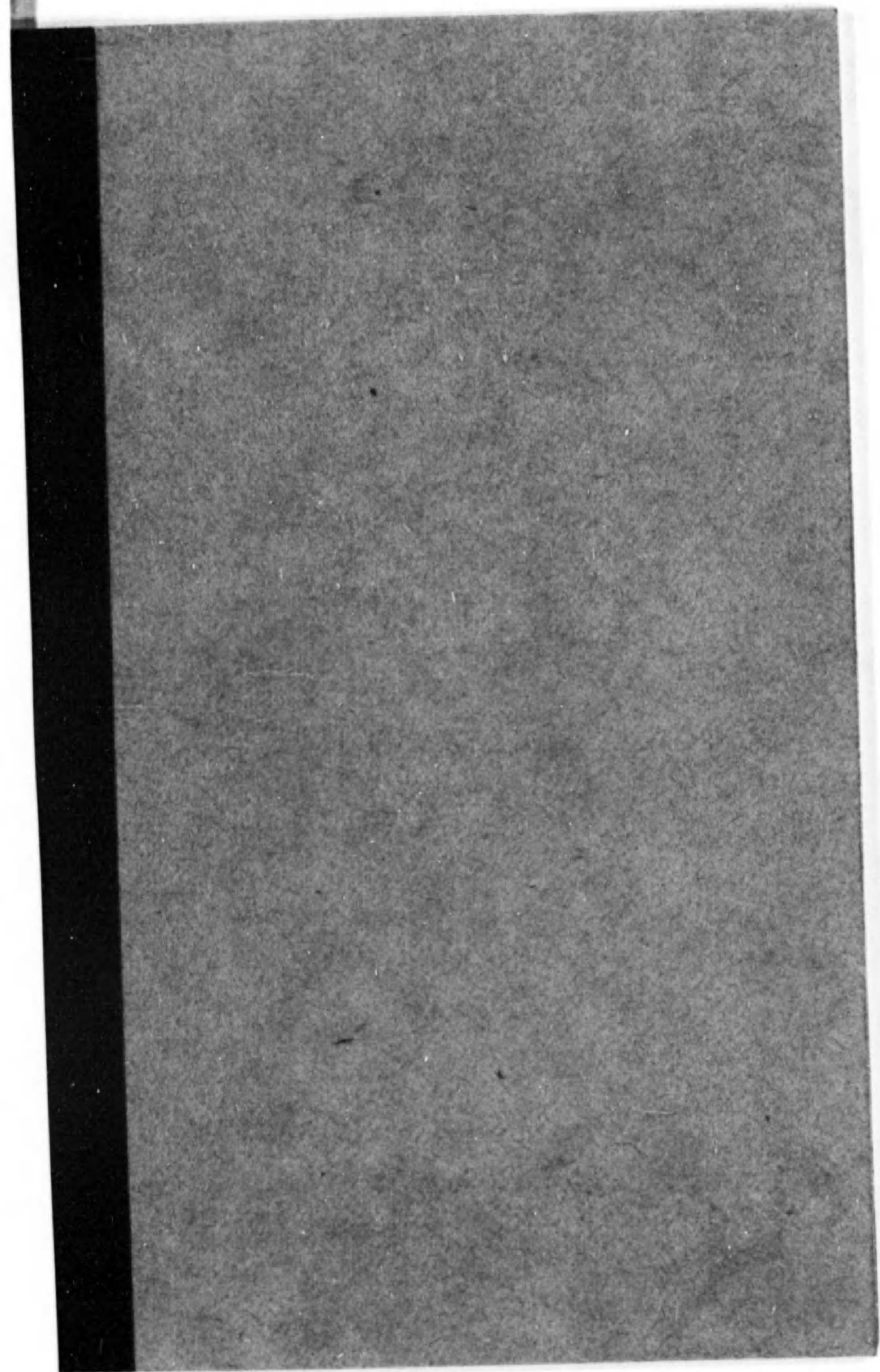
天龍寺

二尊院の南にあり臨濟宗天龍寺派本山○開基は夢窓國師○此地初め檀林寺に
 して檀林皇后御建立あり次て嵯峨帝仙洞御所となる後ち足利尊氏 後醍醐天皇追福の爲め
 當寺建立し光嚴帝の勅願所となる○照堂は聯芳と名け開山七朝國師號の勅書七通を刻む○
 當寺の十境は萬松洞、龍門亭(今亡し)龜頭塔(九重塔を云ふ今亡し)拈華談(嵐山を云ふ)靈
 庇廟(野の宮を云ふ)洞鑑、渡月橋、絶唱溪(大堰川を云ふ)之れなり
 編者曰京都の地たる 御歴代連綿の帝都にして往古より屢々諸家大小名の盛衰興廢若し
 くは戰没等の古蹟又は諸宗本山の湊まる處ろ神社櫛比する地なるを以て悉く網羅する時
 は數百葉の大部となる本書は始め云ふ如く第四回勸業博覽會縱覽の傍ら洛中附近の著名
 なる勝地見物に便する案内の道槩なれば暫らく茲に筆を擱く

明治廿七年十二月十一日印刷
明治廿七年十二月廿四日發行

静岡縣静岡市安西一丁目七十一番地平民
 著作者兼發行者 山田萬作
 同縣同市紺屋町十五番地 福田銀藏
 印刷人 福田銀藏
 【定價十錢】





特51

825

大博覧会奠都紀念祭
京都名区案内記

国立国会図書館

025520-000-8

特51-825

大博覧会奠都紀念祭京都名区案内記

山田 万作 / 著

M27

ADC-3008

